

兼定島公舎屋根・外壁改修工事(D棟・E棟)

図面番号	図面名称
A-01	建築改修工事特記仕様書(その1)
A-02	建築改修工事特記仕様書(その2)
A-03	建築改修工事特記仕様書(その3)
A-04	建築改修工事特記仕様書(その4)
A-05	建築改修工事特記仕様書(その5)
A-06	敷地案内図、配置図
A-07	面積表及び求積図(D棟)
A-08	仕上表、1階平面図(D棟)
A-09	2階、PH平面図、屋根伏図(D棟)
A-10	立面図(D棟)
A-11	面積表及び求積図(E棟)
A-12	仕上表、1階平面図(E棟)
A-13	2階、PH平面図、屋根伏図(E棟)
A-14	立面図(E棟)
A-15	部分詳細図
A-16	仮設計画図

<p align="center">[3.2.5~3.2.6][3.3.2~3.3.5][表3.3.3]~[表3.3.10]</p> <p align="center">アスファルト防水</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="3">防水改修工法 種別</th> <th colspan="4">屋根保護防水</th> <th colspan="4">屋根露出防水</th> <th colspan="4">屋根露出防水断熱</th> </tr> <tr> <th>PIB工法</th> <th>PIB1工法</th> <th>TIB1工法</th> <th>P2A1工法</th> <th>P2A工法</th> <th>M4C工法</th> <th>M3D工法</th> <th>POD工法</th> <th>POD1工法</th> <th>M3D1工法</th> <th>M4D1工法</th> <th></th> <th></th> </tr> <tr> <td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td> </tr> </table>											防水改修工法 種別	屋根保護防水				屋根露出防水				屋根露出防水断熱				PIB工法	PIB1工法	TIB1工法	P2A1工法	P2A工法	M4C工法	M3D工法	POD工法	POD1工法	M3D1工法	M4D1工法			※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	<p>屋内外水 種別 ・ S-G1 [表3.5.3]</p> <p>平場のモルタル塗り厚さ 床塗り工法 ※改修標準仕様書6.15.6(2)(4)および(9)に準ずる</p> <p align="center">下地モルタル塗り ※改修標準仕様書6.15.6(3)(7)に準ずる</p> <p>立上り部保護モルタル塗り厚さ ※7mm</p>	<p>②塗膜防水 (責任施工)</p>	<p>15. 折板葺 (責任施工)</p>	<p>16. 粘土瓦葺 (責任施工)</p>	<p>④ 外壁改修工事</p> <p>①範囲</p> <p>②可とう性エポキシ樹脂</p> <p>④エポキシ樹脂モルタル</p> <p>5. ポリマーセメントモルタル</p> <p>6. ポリマーセメントスラリー</p> <p>7. 既設モルタル</p> <p>8. 防水剤</p>	<p>④-1 コンクリート打放し仕上げ外壁 (責任施工)</p> <p>④-2 モルタル塗り仕上げ外壁 (責任施工)</p>	<p>①専門工事業者</p> <p>②ひび割れ部改修工法</p> <p>③欠損部改修工法</p>	<p>※監督員の承諾する専門工事業者</p> <p>保証期間 ※5年間</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="4">※樹脂注入工法 [4.2.2][4.3.4]</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (ml/m)</th> </tr> <tr> <td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上~1.0未満</td> <td>200~300</td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上~0.3未満</td> <td>50~100</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.3以上~0.5未満</td> <td>100~200</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上~1.0未満</td> <td>150~250</td> <td>※130</td> </tr> </table> <p>建築補修用注入エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 [4.2.2]</p> <p>コア抜取り確認 ・行う (抜取り部の補修方法:)</p> <p>①カットシール材充填工法 [4.2.2][4.3.5]</p> <p>・シーリング材充填</p> <p>・充填材料</p> <p>※成分形または2成分形ポリウレタン系</p> <p>ポリマーセメントモルタルの充填 ・行う</p> <p>④可とう性エポキシ樹脂</p> <p>④エポキシ樹脂モルタル [4.2.2][4.3.6]</p> <p>・ポリマーセメントモルタル</p> <p>④欠損部改修工法 [4.2.2][4.3.7]</p> <p>※充填工法</p> <p>④エポキシ樹脂モルタル</p> <p>・ポリマーセメントモルタル</p> <p>※監督員の承諾する専門工事業者</p> <p>保証期間 ※5年間</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="4">※樹脂注入工法 [4.2.2][4.3.4]</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (ml/m)</th> </tr> <tr> <td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上~1.0未満</td> <td>200~300</td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上~0.3未満</td> <td>50~100</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.3以上~0.5未満</td> <td>100~200</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上~1.0未満</td> <td>150~250</td> <td>※130</td> </tr> </table> <p>建築補修用注入エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 [4.2.2]</p> <p>コア抜取り確認 ・行う (抜取り部の補修方法:)</p> <p>・Uカットシール材充填工法 [4.2.2][4.3.5]</p> <p>・シーリング材充填</p> <p>・充填材料</p> <p>※成分形または2成分形ポリウレタン系</p> <p>ポリマーセメントモルタルの充填 ・行う</p> <p>・可とう性エポキシ樹脂</p> <p>④エポキシ樹脂モルタル [4.2.2][4.3.6]</p> <p>・ポリマーセメントモルタル</p> <p>・可とう性エポキシ樹脂</p> <p>③欠損部改修工法 [4.2.2][4.3.7]</p> <p>※充填工法</p> <p>・エポキシ樹脂モルタル</p> <p>・ポリマーセメントモルタル</p> <p>・モルタル塗装工法 [4.2.2][4.4.9]</p> <p>・現場調合材料</p> <p>(セメントは改修特記仕様書8-2 コンクリート工事にによる)</p> <p>・既設合材 ()</p> <p>既製目地材 ・使用する (形状)</p> <p>仕上げ厚または全塗り厚が25mmを超える場合の処置 ※図示</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="5">改修工法の種類 [4.2.2][4.4.8~4.4.15]</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類</th> <th colspan="2">7本以上の本数 (k/m²)</th> <th colspan="2">注入口の箇所数 (箇所/m²)</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>指定部</th> <th>一般部</th> <th>指定部</th> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※12</td> <td>※20</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※12</td> <td>※20</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>—</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※9</td> <td>※16</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※9</td> <td>※16</td> </tr> <tr> <td>・充填工法</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・モルタル塗替え工法</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table> <p>アンカーピン [4.2.2]</p> <p>※ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したものを。</p> <p>注入口付アンカーピン [4.1.4][4.2.2]</p> <p>※ステンレス鋼(SUS304)呼び径6mm</p> <p>充填工法 [4.2.2][4.3.7]</p> <p>・エポキシ樹脂モルタル</p> <p>・ポリマーセメントモルタル</p> <p>モルタル塗替え工法 [4.2.2][4.4.9]</p> <p>・現場調合材料</p> <p>(セメントは改修特記仕様書8-2 コンクリート工事にによる)</p> <p>・既設合材 ()</p> <p>既製目地材 ・使用する (形状)</p> <p>仕上げ厚または全塗り厚が25mmを超える場合の処置 ※図示</p>	※樹脂注入工法 [4.2.2][4.3.4]				種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~1.0未満	200~300	※130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~0.3未満	50~100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上~0.5未満	100~200	※70		0.5以上~1.0未満	150~250	※130	※樹脂注入工法 [4.2.2][4.3.4]				種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~1.0未満	200~300	※130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~0.3未満	50~100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上~0.5未満	100~200	※70		0.5以上~1.0未満	150~250	※130	改修工法の種類 [4.2.2][4.4.8~4.4.15]					改修工法の種類	7本以上の本数 (k/m ²)		注入口の箇所数 (箇所/m ²)		一般部	指定部	一般部	指定部	・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	—	—	・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13	※20	※12	※20	・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	—	※25	・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9	※16	※9	※16	・充填工法	—	—	—	—	・モルタル塗替え工法	—	—	—	—
防水改修工法 種別	屋根保護防水				屋根露出防水				屋根露出防水断熱																																																																																																																																																						
	PIB工法	PIB1工法	TIB1工法	P2A1工法	P2A工法	M4C工法	M3D工法	POD工法	POD1工法	M3D1工法		M4D1工法																																																																																																																																																			
	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※																																																																																																																																																		
※樹脂注入工法 [4.2.2][4.3.4]																																																																																																																																																															
種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)																																																																																																																																																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~1.0未満	200~300	※130																																																																																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~0.3未満	50~100	※40																																																																																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上~0.5未満	100~200	※70																																																																																																																																																												
	0.5以上~1.0未満	150~250	※130																																																																																																																																																												
※樹脂注入工法 [4.2.2][4.3.4]																																																																																																																																																															
種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)																																																																																																																																																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~1.0未満	200~300	※130																																																																																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~0.3未満	50~100	※40																																																																																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上~0.5未満	100~200	※70																																																																																																																																																												
	0.5以上~1.0未満	150~250	※130																																																																																																																																																												
改修工法の種類 [4.2.2][4.4.8~4.4.15]																																																																																																																																																															
改修工法の種類	7本以上の本数 (k/m ²)		注入口の箇所数 (箇所/m ²)																																																																																																																																																												
	一般部	指定部	一般部	指定部																																																																																																																																																											
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	—	—																																																																																																																																																											
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20																																																																																																																																																											
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13	※20	※12	※20																																																																																																																																																											
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	—	※25																																																																																																																																																											
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16																																																																																																																																																											
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9	※16	※9	※16																																																																																																																																																											
・充填工法	—	—	—	—																																																																																																																																																											
・モルタル塗替え工法	—	—	—	—																																																																																																																																																											
<p>年度別</p> <p>R 6</p> <table border="1"> <tr> <th>分類</th> <th>第一分類</th> <th>第二分類</th> <th>第三分類</th> </tr> <tr> <td>審査</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>6年 6月</p>		分類	第一分類	第二分類	第三分類	審査				<p>公立大学法人 福井県立大学</p>			<p>K M R</p> <p>株式会社 木村建築事務所</p> <p>1級建築士事務所 福井県 (I) 115号</p> <p>管理建築士 1級建築士 第16789号 木村重一</p>			<p>工事名称</p> <p>兼定島公舎屋根・外壁改修工事(D棟・E棟)</p> <p>図面番号</p> <p>A-02</p>		<p>設計</p> <p>図面名称</p> <p>建築改修工事特記仕様書(その2)</p> <p>縮尺</p>																																																																																																																																													
分類	第一分類	第二分類	第三分類																																																																																																																																																												
審査																																																																																																																																																															
<p>防水改修工法 種別</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="3">防水改修工法 種別</th> <th colspan="12">合成高分子系ルーフィングシート防水</th> </tr> <tr> <th>POS工法</th> <th>POS1工法</th> <th>S4S工法</th> <th>S4S1工法</th> <th>S3S工法</th> <th>S3S1工法</th> <th>M4S工法</th> <th>M4S1工法</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> <tr> <td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td> </tr> </table> <p>既存防水層 ルーフドレン回りの処理 改修用ドレンを設置する</p> <p>既存表面の仕上げ塗装を除去する</p> <p>脱気装置を設置する</p> <p>脱気装置の種類および設置数量 ※図示</p> <p>PCコンクリート部材下地目地処理 (接着工法) する</p> <p>工法 ※図示</p> <p>PCコンクリート部材増強りする</p> <p>工法 ※図示</p>											防水改修工法 種別	合成高分子系ルーフィングシート防水												POS工法	POS1工法	S4S工法	S4S1工法	S3S工法	S3S1工法	M4S工法	M4S1工法					※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	<p>⑨漏水試験</p> <p>⑩施工確認</p> <p>⑪シーリング</p>	<p>9. 漏水試験</p> <p>⑩ 施工確認</p> <p>⑪ シーリング</p> <p>12. とい</p> <p>13. アルミニウム製笠木</p> <p>14. 長尺金属板葺 (責任施工)</p>	<p>11. 範囲</p> <p>④ 外壁改修工事</p> <p>①範囲</p> <p>②可とう性エポキシ樹脂</p> <p>④エポキシ樹脂モルタル</p> <p>5. ポリマーセメントモルタル</p> <p>6. ポリマーセメントスラリー</p> <p>7. 既設モルタル</p> <p>8. 防水剤</p>	<p>④-1 コンクリート打放し仕上げ外壁 (責任施工)</p> <p>④-2 モルタル塗り仕上げ外壁 (責任施工)</p>	<p>①専門工事業者</p> <p>②ひび割れ部改修工法</p> <p>③欠損部改修工法</p>	<p>※監督員の承諾する専門工事業者</p> <p>保証期間 ※5年間</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="4">※樹脂注入工法 [4.2.2][4.3.4]</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (ml/m)</th> </tr> <tr> <td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上~1.0未満</td> <td>200~300</td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上~0.3未満</td> <td>50~100</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.3以上~0.5未満</td> <td>100~200</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上~1.0未満</td> <td>150~250</td> <td>※130</td> </tr> </table> <p>建築補修用注入エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 [4.2.2]</p> <p>コア抜取り確認 ・行う (抜取り部の補修方法:)</p> <p>・Uカットシール材充填工法 [4.2.2][4.3.5]</p> <p>・シーリング材充填</p> <p>・充填材料</p> <p>※成分形または2成分形ポリウレタン系</p> <p>ポリマーセメントモルタルの充填 ・行う</p> <p>・可とう性エポキシ樹脂</p> <p>④エポキシ樹脂モルタル [4.2.2][4.3.6]</p> <p>・ポリマーセメントモルタル</p> <p>・可とう性エポキシ樹脂</p> <p>③欠損部改修工法 [4.2.2][4.3.7]</p> <p>※充填工法</p> <p>・エポキシ樹脂モルタル</p> <p>・ポリマーセメントモルタル</p> <p>・モルタル塗装工法 [4.2.2][4.4.9]</p> <p>・現場調合材料</p> <p>(セメントは改修特記仕様書8-2 コンクリート工事にによる)</p> <p>・既設合材 ()</p> <p>既製目地材 ・使用する (形状)</p> <p>仕上げ厚または全塗り厚が25mmを超える場合の処置 ※図示</p>	※樹脂注入工法 [4.2.2][4.3.4]				種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~1.0未満	200~300	※130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~0.3未満	50~100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上~0.5未満	100~200	※70		0.5以上~1.0未満	150~250	※130																																																																																	
防水改修工法 種別	合成高分子系ルーフィングシート防水																																																																																																																																																														
	POS工法	POS1工法	S4S工法	S4S1工法	S3S工法	S3S1工法	M4S工法	M4S1工法																																																																																																																																																							
	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※																																																																																																																																																		
※樹脂注入工法 [4.2.2][4.3.4]																																																																																																																																																															
種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)																																																																																																																																																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~1.0未満	200~300	※130																																																																																																																																																												
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~0.3未満	50~100	※40																																																																																																																																																												
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上~0.5未満	100~200	※70																																																																																																																																																												
	0.5以上~1.0未満	150~250	※130																																																																																																																																																												

4-3 タイル張り仕上げ外壁責任施工工	1. 専門工事業者	※監督員の承諾する専門工事業者 保証期間 ※5年間
	2. タイル接着力試験	※行う ・行わない
	3. ひび割れ部改修工法	※樹脂注入工法 [4.2.2][4.3.4] 種 類 ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入力 (m ² /m) ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上~1.0未満 200~300 ※130 ・手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上~0.3未満 50~100 ※40 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上~0.5未満 100~200 ※70 0.5以上~1.0未満 150~250 ※30 建築補修用注入エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形 コア抜き確認 ・行う (抜き取り部の補修方法:) [4.2.2] ・Uカットシール材充填工法 [4.2.2][4.3.5] ・シーリング材充填 充填材料 ※1成分または2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ・行う ・可とう性エポキシ樹脂
	4. 欠損部改修工法	・タイル部分張替え工法 [4.5.7] 接着材 [4.2.2] ※ポリマーセメントモルタル ・変成シリコン樹脂 (JIS A 5557) ・ウレタン樹脂 (JIS A 5557) 張付け材料 既成調合モルタル ・使用する ・タイル張替え工法 [4.2.2][4.5.8] 張付け材料 既成調合モルタル ・使用する 張付け工法 外装タイル ※密着張り ・改良圧着張り ・改良積上げ張り [4.5.8][表4.5.3] 外装ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り ・外装タイル接着剤張り 伸縮調整目地および、ひび割れ誘発目地 位置 ※改修標準仕様書表4.5.11による ・図示 目地寸法 (mm) (幅×深さ) コガト打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※20以上×10以上 その他 ※10以上×10以上 ・10以上×7以上
	5. 浮き部改修工法	[4.4.10~4.4.15][4.5.15] 改修工法の種類 フォトビンの本数(本/m ²) 注入口の箇所数(箇所/m ²) 充填量 (nl/箇所) 注入力 (nl/箇所) ・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法 ※16 ※25 — — ※25 — ・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法 ※13 ※20 ※12 ※20 ※25 ※25 ・アンカーピンニング全面 ポリマーセメントスラリー 注入工法 ※13 ※20 ※12 ※20 ※25 ※50 ・注入口付アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 — — ※25 — ・注入口付アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※25 ※25 ・注入口付アンカーピンニング全面 ポリマーセメントスラリー 注入工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※25 ※50 ・注入口付アンカーピンニング エポキシ樹脂注入工法 ※25 ※25

5 建具 改修 工事	1. 改修工法 [5.1.3]	建具の種類 呼び名 防火材料 仕上げの形状 ・薄付け仕上塗材 ・外装薄塗材 S i ・ 砂壁状 ・可とう形外装薄塗材 S ・ 砂壁状 (吹付け ・ ローラー塗り) ・外装薄塗材 E ・ さざ波状 ・ 平たん状 ・可とう形外装薄塗材 E ・ 凹凸状 (吹付け ・ こて塗り) ・防水形外装薄塗材 E ・ 着色砂壁状 (吹付け ・ こて塗り) ・外装薄塗材 S ・ 砂壁状じゅらく ・内装薄塗材 W ・ 京壁状じゅらく ・厚付け仕上塗材 ・外装厚塗材 C ・ 吹出し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・外装厚塗材 S i ・ 凹凸状 ・ ひき起こし ・ きき落とし ・外装厚塗材 E ・ 上塗材 ・ 適用する ・可とう形厚塗材 C E ・ 砂壁状 ・ 凸部処理 ・可とう形厚塗材 S i ・ 耐水性 ※耐形状 3種 ・厚塗材 E ・ 溶媒 ※水系 ・ 溶剤系 ・厚塗材 R E ・ 樹脂 ※アクリル系 ・防水形厚塗材 C E ・ 外観 ※つやあり ・ つやなし ・防水形厚塗材 E ・ メタリック ・防水形厚塗材 R E ・ 増塗材 ・ 適用する ・可とう系改修用 ・可とう系改修塗材 E ・ 平たん状 ・可とう系改修塗材 R E ・ さざ波状 仕上塗材 ・可とう系改修塗材 C E ・ 砂壁状 ・マスチック塗材 ・ A種 ・ 凸部処理 ・ 行う ・ B種 ・ 仕上材 ・ アクリル樹脂エナメル ※つや有合成樹脂エマルジョン ペイント
	2. 防火戸 [5.1.4]	外壁用塗膜防水塗 仕上げの形状 工法 外壁用塗膜防水塗の耐水性 ※JIS A 6909の耐水性 1種相当 下地拳動継ぎ材の適用 ・適用する 吹付け工法の模様材の種類 ・所要量 (kg/m ²) 外壁用仕上塗材の種類 ・所要量 (kg/m ²)
	3. 見本の製作等 [5.1.5]	新規に建具を設ける場合 壁部分の開口の開け方 ※図示 新規建具周囲の補修工法及び範囲 ※図示 指定する範囲・箇所 (・建具表による) ・指定しない ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動 ・連動させる (・建具表による) ・連動させない
	4. 防犯建物部品 [5.1.7]	建具見本の製作 ・行う (建具符号:) [5.1.5] 建具見本の程度 ・工事使用するものとして、あらかじめ製作する 特殊な建具の仮組 ・行う (建具符号:) [5.1.5] ・適用する () 適用箇所 (・建具表による) [5.1.7] ・適用しない
	5. アルミニウム製建具 [5.2.1][表5.2.1]	性能等級 外部に面する建具 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み (mm) 施工箇所 ・ A種 S-4 ※A-3 ※W-4 ※70 ※図示 ・ B種 S-5 ・ C種 S-6 ・ A-4 ・ W-5 ・ 100 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () [5.2.2] 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () [5.2.2] 耐震ドア 面内変形追随性の等級 () [5.2.2] 表面処理 外部に面する建具 ※BB-1種 ・ BB-2種 () [5.2.4][表5.2.2] 屋内の建具 ※AC-1種 ・ AC-2種 () [5.2.3] ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 結露水の処理方法 ※図示

6 網戸等	7. 樹脂製建具 [5.2.3]	種 類 材 質 線 径 網 目 ・防虫網 ・合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ※ステンレス (SUS316) 製 ※0.25mm以上 ※16~18メッシュ ・防鳥網 ステンレス (SUS304) 線材 1.5mm ビッチ 15mm 性能等級 [5.3.2][5.3.4][表5.3.1] 外部に面する樹脂製建具 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み (mm) 施工箇所 ・ A種 S-4 ※A-4 ※W-4 ※図示 ※図示 ・ B種 S-5 ・ C種 S-6 ※W-5 遮音性能の種別 ・ T-A種 ・ T-B種 [5.3.2][表5.3.2] 断熱性能の種別 ・ H-A種 ・ H-B種 ・ H-C種 [5.3.2][表5.3.3] 表面色 ・ 白 ・ 黒 ・ ブラウン ・ シルバー [5.3.4] 外部に面する建具の耐風圧性 ※S-4 ・ S-5 ・ S-6 [5.4.2] 簡易気密ドアセット ・ 適用する (建具記号: ・ 建具表による) [5.4.2] 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () [5.4.2] 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () [5.4.2] 耐震ドア 面内変形追随性の等級 () [5.4.2] 鋼板の種類 ・ 鋼板 ・ ビニル被膜鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板 鋼板の厚さ ※改修標準仕様書表5.5.1による mm ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 召合せ、縦小口包み板の材料 ※鋼板 ・ ステンレス鋼板 ・ アルミニウム強引の押出形材 鋼板の厚さ (1枚の有効開口幅950mmまたは有効高さ2,400mmを超える場合) [5.4.4] ※下表以外は表5.4.2による 区分 使用箇所 厚さ (mm) 窓 枠類 外部の下枠、水切り板 2.3 出入口 枠類 外部に面するシングルドアの建具の場合 2.3 つづり 2.0 戸 2.3 簡易気密ドアセット ・ 適用する (建具記号: ・ 建具表による) [5.5.2] 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () [5.5.2] 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () [5.5.2] 耐震ドア 面内変形追随性の等級 () [5.5.2] 鋼板の種類 ・ 鋼板 ・ ビニル被膜鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板 鋼板の厚さ ※改修標準仕様書表5.5.1による mm ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 召合せ、縦小口包み板の材料 ※鋼板 ・ ステンレス鋼板 ・ アルミニウム強引の押出形材 外部に面する建具の耐風圧性 ※S-4 ・ S-5 ・ S-6 [5.4.2][表5.2.1] ステンレス鋼板 ・ SUS430J1L ・ SUS304 ・ SUS443J1 [5.6.3] 簡易気密ドアセット ・ 適用する (建具記号: ・ 建具表による) [5.6.2] 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () [5.6.2] 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () [5.6.2] 耐震ドア 面内変形追随性の等級 () [5.6.4] 表面仕上げ ※HL仕上げ [5.6.4] 曲げ加工 ※普通曲げ ・ 角出し曲げ (補強有り) [5.6.5]
	8. 鋼製建具 [5.4.2]	簡易気密ドアセット ・ 適用する (建具記号: ・ 建具表による) [5.5.2] 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () [5.5.2] 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () [5.5.2] 耐震ドア 面内変形追随性の等級 () [5.5.2] 鋼板の種類 ・ 鋼板 ・ ビニル被膜鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板 鋼板の厚さ ※改修標準仕様書表5.5.1による mm ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 召合せ、縦小口包み板の材料 ※鋼板 ・ ステンレス鋼板 ・ アルミニウム強引の押出形材 外部に面する建具の耐風圧性 ※S-4 ・ S-5 ・ S-6 [5.4.2][表5.2.1] ステンレス鋼板 ・ SUS430J1L ・ SUS304 ・ SUS443J1 [5.6.3] 簡易気密ドアセット ・ 適用する (建具記号: ・ 建具表による) [5.6.2] 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () [5.6.2] 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () [5.6.2] 耐震ドア 面内変形追随性の等級 () [5.6.4] 表面仕上げ ※HL仕上げ [5.6.4] 曲げ加工 ※普通曲げ ・ 角出し曲げ (補強有り) [5.6.5]
	9. 鋼製軽量建具 [5.4.2]	簡易気密ドアセット ・ 適用する (建具記号: ・ 建具表による) [5.5.2] 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () [5.5.2] 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () [5.5.2] 耐震ドア 面内変形追随性の等級 () [5.5.2] 鋼板の種類 ・ 鋼板 ・ ビニル被膜鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板 鋼板の厚さ ※改修標準仕様書表5.5.1による mm ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 召合せ、縦小口包み板の材料 ※鋼板 ・ ステンレス鋼板 ・ アルミニウム強引の押出形材 外部に面する建具の耐風圧性 ※S-4 ・ S-5 ・ S-6 [5.4.2][表5.2.1] ステンレス鋼板 ・ SUS430J1L ・ SUS304 ・ SUS443J1 [5.6.3] 簡易気密ドアセット ・ 適用する (建具記号: ・ 建具表による) [5.6.2] 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () [5.6.2] 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () [5.6.2] 耐震ドア 面内変形追随性の等級 () [5.6.4] 表面仕上げ ※HL仕上げ [5.6.4] 曲げ加工 ※普通曲げ ・ 角出し曲げ (補強有り) [5.6.5]
	10. ステンレス製建具 [5.4.2]	簡易気密ドアセット ・ 適用する (建具記号: ・ 建具表による) [5.5.2] 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () [5.5.2] 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () [5.5.2] 耐震ドア 面内変形追随性の等級 () [5.5.2] 鋼板の種類 ・ 鋼板 ・ ビニル被膜鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板 鋼板の厚さ ※改修標準仕様書表5.5.1による mm ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 召合せ、縦小口包み板の材料 ※鋼板 ・ ステンレス鋼板 ・ アルミニウム強引の押出形材 外部に面する建具の耐風圧性 ※S-4 ・ S-5 ・ S-6 [5.4.2][表5.2.1] ステンレス鋼板 ・ SUS430J1L ・ SUS304 ・ SUS443J1 [5.6.3] 簡易気密ドアセット ・ 適用する (建具記号: ・ 建具表による) [5.6.2] 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () [5.6.2] 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () [5.6.2] 耐震ドア 面内変形追随性の等級 () [5.6.4] 表面仕上げ ※HL仕上げ [5.6.4] 曲げ加工 ※普通曲げ ・ 角出し曲げ (補強有り) [5.6.5]
	11. 木製建具 [5.4.2]	建具の加工、組立時の含水率 ※B種 (16.7.2) 建物内部の木製建具に使用する表面材および接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ (16.7.2) フラッシュ戸の表面材の種類 ※図示 (16.7.2) かまち戸の樹種 かまち (鏡板 ()) (16.7.2) 枠の材料 ※図示 (16.7.2) つづりの材料 ※図示 (16.7.2) ふすま (16.7.2) 上張り ※地場産和紙 ・ 新鳥の子またはビニル紙程度 (押入れ等の裏面は除く) ・ 鳥の子 縁仕上 ※図示 ・ 塗り縁 ・ 生地縁 (素地) ・ 生地縁 (巾割り塗装)

14 軽量シャッター	12. 建具用金物 [5.7.1~3]	材質、形状及び寸法 [5.7.1~3] 金物の種類及び見出し部の材質等 ※改修特記仕様書表5.7.1により適用は建具表による 金属性建具用丁番の枚数及び大きさ ※改修特記仕様書表5.7.2による ・ 建具表による 樹脂製建具用丁番の枚数及び大きさ ※改修特記仕様書表5.7.3による ・ 建具表による 錠前類 (品質、性能) ※建築材料等品質性能による クローザー類 (品質・性能) (試験方法) ※建築材料等品質性能による [5.7.4] マスターキー ・ 製作する (・ 既存マスターキーに合わせる) ・ 製作しない その他の錠の製作本数 ※3本1組
	13. 自動ドア開閉装置 [5.8.2][5.8.3][表5.8.1~5.8.4]	自動ドア開閉装置の性能 放射ノイズ 防 錆 防 滴 引戸用検出装置 凍結防止措置 ※DSL D-1 ・ 適用する ・ 適用する ・ 適用する ・ 電波 (電磁) センサー ・ 行う ・ DSL D-2 ・ 適用する ・ 適用する ・ 適用する ・ 光線 (反射) センサー ・ SSL D-1 ・ 適用する ・ 適用する ・ 適用する ・ 音波センサー ・ SSL D-2 ・ 適用する ・ 適用する ・ 適用する ・ タッチスイッチ ・ 図示 ・ 適用する ・ 適用する ・ 適用する ・ ペダルスイッチ ・ 多機能スイッチ
	14. 自閉式上吊り引戸装置 [5.9.3][表5.9.1]	多機能トレイル出入口引き戸用駆動装置の性能値 [5.8.2] ※改修特記仕様書表5.8.2による 引戸用検出装置性能値 [5.8.3] ※改修特記仕様書表5.8.3による 戸の開閉方式 ・ 建具表による [5.8.3] 引戸検出装置の種類 ・ 改修特記仕様書表5.8.4 () による ※建具表による 凍結防止措置 ・ 適用する ・ 適用しない
	15. 重量シャッター [5.10.2]	※改修標準仕様書表 5.9.11による [5.9.3][表5.9.1] シャッターの種類 [5.10.2] ・ 一般重量シャッター 耐風圧性能 () N/m2 ・ 外壁用防火シャッター 耐風圧性能 () N/m2 ・ 屋内用防火シャッター ・ 屋内用防煙シャッター 開閉方式による種類 [5.10.2][表5.10.1] ※上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 [5.10.2] 一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける
	16. ガラス [5.13.2]	ガラスの種類は、次による。ただし、その種類および厚さごとの使用箇所、図示。 [5.13.2] ・ フロント板ガラスの厚さによる種類等 ※図示 < > ・ 型板ガラスの品質および厚さによる種類等 ※図示 < > ・ 網入り板ガラスの品質および厚さによる種類等 ※図示 < > ・ 合わせガラスの合計厚さおよび特性等による種類等 ※図示 < > ・ 強化ガラスの板ガラスの種類および厚さによる種類等 ※図示 < > ・ 熱線吸収板ガラスの種類および厚さによる種類等 ※図示 < > ・ 層間ガラスの板ガラスの種類および厚さによる種類等 ※図示 < > ・ 熱反射ガラスの種類および厚さによる種類等 ※図示 < > ・ 倍強度ガラスの板ガラスの種類および厚さによる種類 ※図示 < > 建具の種類 ガラスとめ材 ガラス溝の大きさ (mm) アルミニウム製 ※シーリング材 ※建具製作所の仕様による ・ ガスケット ※グレイジングチャンネル形 ・ 図示 鋼製及び鋼製軽量 ステンレス製 ただし、防火戸は建築基準法に基づき防火性能認定品とする。

6 内装 改修 工事	1. 改修範囲 [6.1.3]	既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁、床の改修範囲 [6.1.3] ※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲 [6.1.3] ※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示 天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修 [6.1.3] ※既存のまま ・ 図示
	2. 既存床の撤去、下地補修 [6.2.2]	ビニル床シート等の除去 ※仕上げ材のみ (接着剤は可能な限り) [6.2.2] ・ 下地モルタルとも (※図示の範囲 ・ 除去範囲全て) 合成樹脂塗床材の除去工法 ・ 機械的除去工法 ・ 目荒工法 [6.2.2] 改修後の床の清掃範囲 ※図示 [6.2.2] ポリマーセメントモルタルおよびエポキシ樹脂モルタル [4.2.2][6.2.2] 「外壁改修工事」による。
	3. 既存壁の撤去、下地補修 [4.4.9][6.3.2]	間仕切壁撤去に伴う他の構造物の補修 [4.4.9][6.3.2] ※モルタル塗り (塗り厚25mmを超える場合の補強 ・ 行う) ・ 図示
	4. 木下地等 [6.5.1][表6.5.1~2]	表面仕上げの程度 適用箇所 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ H-A種 ・ H-B種 ※内部造作材 ・ H-C種 ※下地材 木材の含水率 (下地材 ・ A種 ※B種) [6.5.2][表6.5.3] (造作材 ・ A種 ・ B種 ※県木材組合連合会品質保証材) 保存処理木材 ・ 使用する (使用箇所) ※代用樹種の禁止 杉材については県産材を使用すること。 その他の材についても県産材を使用するよう努力すること。
	6. 内装改修工事	既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁、床の改修範囲 [6.1.3] ※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲 [6.1.3] ※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示 天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修 [6.1.3] ※既存のまま ・ 図示 ビニル床シート等の除去 ※仕上げ材のみ (接着剤は可能な限り) [6.2.2] ・ 下地モルタルとも (※図示の範囲 ・ 除去範囲全て) 合成樹脂塗床材の除去工法 ・ 機械的除去工法 ・ 目荒工法 [6.2.2] 改修後の床の清掃範囲 ※図示 [6.2.2] ポリマーセメントモルタルおよびエポキシ樹脂モルタル [4.2.2][6.2.2] 「外壁改修工事」による。 間仕切壁撤去に伴う他の構造物の補修 [4.4.9][6.3.2] ※モルタル塗り (塗り厚25mmを超える場合の補強 ・ 行う) ・ 図示 表面仕上げの程度 適用箇所 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ H-A種 ・ H-B種 ※内部造作材 ・ H-C種 ※下地材 木材の含水率 (下地材 ・ A種 ※B種) [6.5.2][表6.5.3] (造作材 ・ A種 ・ B種 ※県木材組合連合会品質保証材) 保存処理木材 ・ 使用する (使用箇所) ※代用樹種の禁止 杉材については県産材を使用すること。 その他の材についても県産材を使用するよう努力すること。

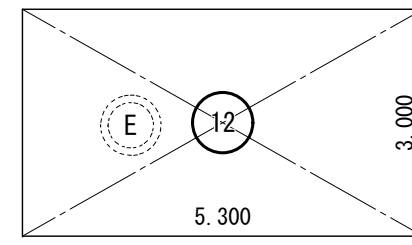
16. セルフレベリング材塗り	標準的な曲がりの役物は一体成形とする 試験張り ・行方 [6.16.3] 見本焼き ・行方 [6.16.4] 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ [6.16.4]
	・せっこう系 (施工箇所および厚さ ※仕上表による) ・図示 ・セメント系 (施工箇所および厚さ ※仕上表による) ・図示
17. ブラインド	・再使用する (養生方法:) ・新設する [2.3.1][5.1.6] (20.2.12)
18. カーテン	・再使用する (保管場所:) ・新設する [2.3.1][5.1.6] (20.2.14)
19. カーテンレール	再使用する (養生方法:) ・新設する [5.1.6] (20.2.14)
20. ブラインドボックス およびカーテンボックス	・再使用する [5.1.6] ・新設する [5.2.4]
21. フリーアクセスフロア	※耐荷重性能 (5000N、高さ300以上)については平成元年建設省告示第1322号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもまたは同等のものとする。
22. 移動間仕切	表面仕上材の品質・性能は、標準仕様書19章による。 構成材の材質 ・アルミニウム製 ・鋼製 コンセント等の取付け対応 ※製造所の標準仕様 コンセント本体 ・別途設備工事
23. 移動間仕切	遮音タイプの天井裏は図示による
24. トイレブース	遮音タイプの天井裏は図示による ハンガーレール取付下地補強 ※図示 ハンガーレールの躯体または下地補強材に対する固定は溶接とする

25. 表示	(20.2.10)
26. 天井見切縁	材種 ・アルミニウム製 ・強化ビニル製
27. 天井点検口	材種 ・アルミニウム製 寸法 ・450×450 形式 ・一般形 ・密閉形 外枠 ・樹脂タイプ 内枠 ・樹脂タイプ 枠の許容差 ±0.5mm以内 クリアランス 片側 2.0mm以内
29. 床点検口	材種 ・アルミニウム製 寸法 ・450×450 形式 ・一般形 ・密閉形 外枠 ・樹脂タイプ 内枠 ・樹脂タイプ 枠の許容差 ±0.5mm以内 クリアランス 片側 2.0mm以内
32. かざ箱	() 本用 () 個
⑦ 塗装改修工事	1. 材料 建物内部に使用するユリア樹脂等をういた塗料のホルムアルデヒドの放散量 [7.1.3] ※F☆☆☆☆ 防火材料 [7.1.3] ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 ・次の箇所を除き防火材料とする (箇所)
⑧ 塗装業者	・塗装工事および仕上げ塗材仕上げの塗り面積の合計が概ね500m ² 以上の工事、または塗装専門業者が元請業者である工事 ※日本塗装工業会の会員(「日本塗装工業会指導要領」に基づき、指導員の指導を受けること。) ・上記に該当しない工事 ※監督員の承諾する業者
3. 下地調整	既存塗膜の除去範囲 (塗装えてR8の場合) [7.2.1][表7.2.1~7.2.7] ※塗装面積の30% ・図示 下地調整 [7.2.2~7.2.7][表7.2.1~7.2.7]
4. 錆止め塗料塗り	錆止め塗料塗りの種類 [7.3.2~7.3.3][表7.3.1~7.3.4]

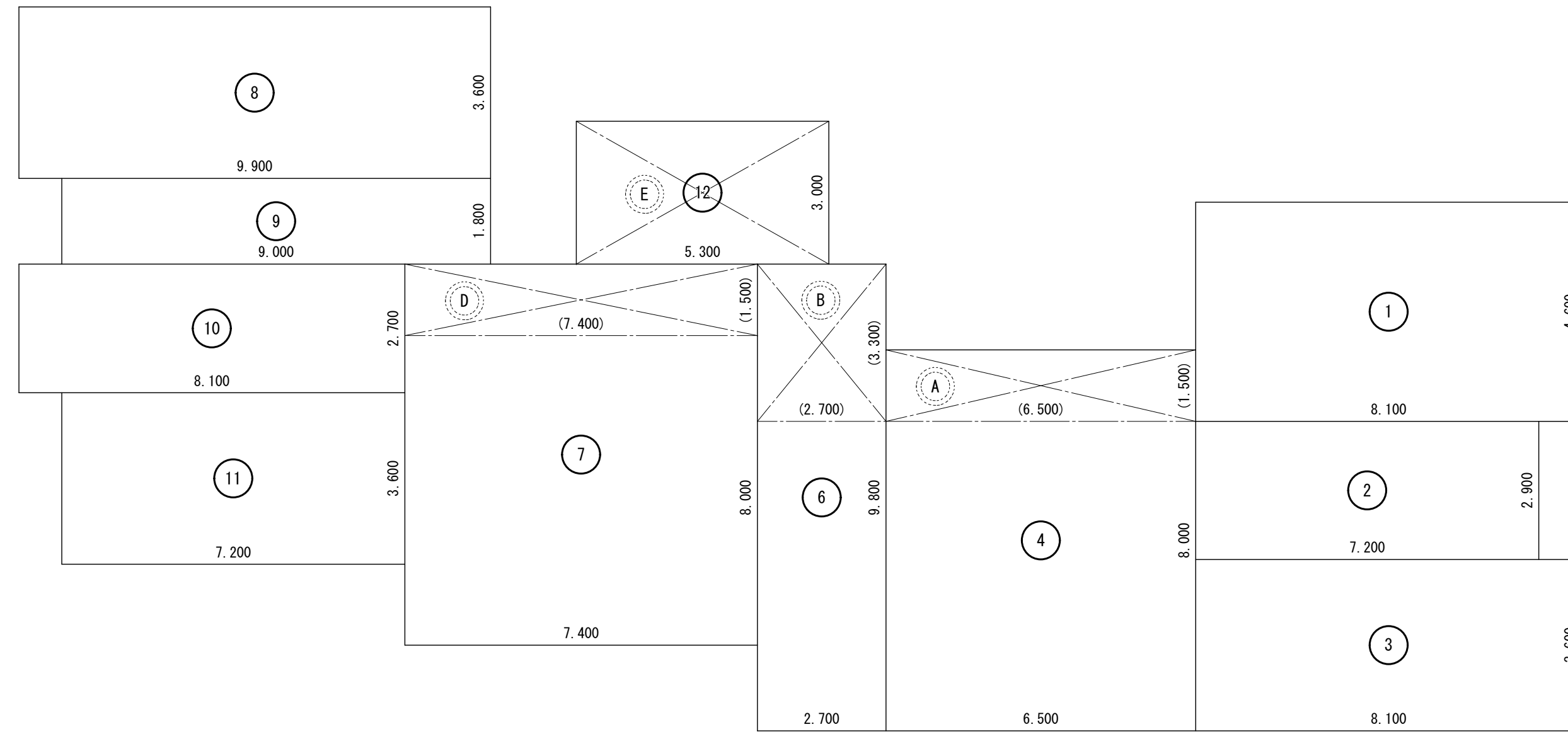
⑤ 塗装	[7.4.2~7.14.2][表7.4.1~7.14.1]
⑧ 耐震改修工事 共通事項	1. 適用範囲 工事内容 [8.1.1] ・現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 ・鉄骨プレースの設置工事 ・柱補強工事 (溶接金網巻き工法または溶接閉鎖フープ巻き工法) ・柱補強工事 (鋼板巻き工法または帯板巻き工法) ・柱補強工事 (連続繊維補強工法) ・耐震スリット新設工事 ・免震改修工事 ・制振改修工事 ・土工事及び事業工事 工事種別 ・施工調査 (施工計画調査、施工数量調査、調査のための破壊部分の補修) ・撤去工事 (設備機器配管および仕上げの取り壊し・撤去 (下地の一部分は全てを含む)、構造体のはつり) ・鉄筋工事 ・コンクリート工事 ・あと施工アンカー工事 ・鉄骨工事 ・グラウト工事 ・連続繊維補強工事 ・スリット新設工事 ・その他工事
8-1 撤去工事	1. 既存仕上げ等の撤去 既存仕上げ等の撤去範囲 [8.21.2][8.22.2][8.23.2][8.24.3][8.26.5][8.27.2] ※図示 ・新設のコンクリート、モルタル、グラウト材、鉄骨、連続繊維に接する部分 ・既存コンクリート撤去範囲に接する部分 ・ 既存機械設備、配管の撤去、新設、移設等の処置 ※設備機器および配管、壁等の撤去および処分は本工事の範囲としない ・本工事の範囲として図示された設備機器および配管、壁等の撤去および処分 ・ 2. 既存コンクリートの撤去 撤去範囲 ※図示 [8.21.2][8.22.2][8.23.2][8.24.2][8.26.5][8.27.2] 撤去する既存コンクリート内の鉄筋の切断 切断範囲 範囲 適用 ・既存鉄筋は切断せず残す ※図示 ・全ての撤去部分 ・適用なし ・コンクリート撤去範囲の周囲 ※図示 ・全ての撤去部分 残す一定長※継手長さより一定長を残し切断 ・適用なし ・コンクリート撤去範囲の鉄筋 ※切断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 はつり出した鉄筋の処理 ※鉄筋に損傷を与えないように適切な養生を施す 撤去する既存コンクリート内にあった鉄骨の処理 ※コンクリート等を除去し鉄骨を現す
8-2 鉄筋工事	1. 鉄筋の種類 鉄筋の種類 [8.2.1][表8.2.1] 種類の記号 径 (mm) ※SD295A ※SD345 ・ 目荒らしの程度 ※平均深さ2~5mm、最大深さ7mm程度の凹凸を50~100mm間隔程度で施す。 ・図示

2. 溶接金網	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm) [8.2.2] 使用部位 6φ 100×100 丸鉄線 ・保護コンクリート 6φ 150×150 丸鉄線 ・コンクリート舗装
3. 鉄筋の加工および組立て	鉄筋の種類に応じた継手工法 [8.3.4][8.4.2][8.4.3] 部位 継手方法 径 (mm) 柱・梁の主筋 ※ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手 その他 ※重ね継手 継手位置 [8.3.4] ・図示による 柱及び梁の主筋の重ね継手長さ ・図示による 耐力壁の重ね継手の長さ ・図示による 鉄筋の定着長さ ・図示による 鉄筋のかぶり厚さ ※改修特記仕様書8.3.6による ・図示
5. 機械式継手	適用箇所 ・図示による () H12建設省告示第1463号に適合する性能 ・A級 機械式継手の種類 ・図示による ()
6. 溶接継手	適用箇所 ・図示による () H12建設省告示第1463号に適合する性能 ・A級 溶接継手の工法 ・図示による ()
7. 柱の配筋	帯筋の組立ての形の種別 [8.3.4][参考図1.1] H形 ・W-I形 ・W-II形 (フレア溶接部を2箇所としたもの)
8. 梁の配筋	あばら筋の種類、径および間隔 ※図示 (参考図3.2)
9. 壁の配筋および補強	壁の配筋および壁開口部の補強 ※図示 [8.3.7]
10. 各部配筋	※標準仕様書の各部配筋参考図の図および表による ・図示 (5.3.7)
11. ガス圧接	圧接完了後の試験 [8.3.8] (5.4.9) ※超音波探傷試験 ・引張試験
12. 割製補強筋	割製補強筋の適用 [8.21.6][8.22.7] 種類 材料 材質 径 本数ピッチ等 適用箇所 ※スバイラル筋 ※鉄筋コンクリート用棒鋼 ※S R235 ※6φ () スバイラルの径 (mm) ※図示 ・9φ () スバイラルのピッチ (mm) () ・はしご筋 ※鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋) ・SD295A ・D10 壁面内方向筋 () 壁面外方向筋 () ・9φ ・100×100
8-3 コンクリート工事	1. コンクリートの種類および強度 [8.1.3][8.1.4] ※普通コンクリート 設計基準強度 F _c (N/mm ²) スランプ 適用範囲 ・24 ・21 ・軽量コンクリート ・1種 ※2種 [8.1.3][8.1.4][8.9.1] 設計基準強度 F _c (N/mm ²) スランプ (cm) 気乾単位容積質量 (t/m ³) 適用範囲 ・24 ・21 コンクリートの類別 ※1類 ・2類 [8.1.3] 2. セメントの種類 [8.2.5][表8.2.3] ※普通ポルトランドセメントまたは混合セメントのA種 上記の普通ポルトランドセメントは、JIS R 5210 (ポルトランドセメント) に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下であること。 ・高炉セメントB種 (適用箇所) ・フライアッシュセメントB種 (適用箇所) 3. 骨材 [8.2.5] アルカリシリカ反応性による区分 ※A ・B 4. 混和材料 [8.2.5] ・混和剤 混和剤の種類 ※改修特記仕様書8.2.5(4)(a)による ・混和材 混和材の種類 ※改修特記仕様書8.2.5(4)(b)による 5. 構造体用モルタル [8.2.6] 構造体用モルタル 圧縮強度 () フロー値 () 6. 構造体強度補正值および適用期間 [8.2.5] (6.3.2) (表6.3.2) (6.12.2) 地区 補正值 3N 暑中6N 6N 福井・丹南地区 3/9~7/13 7/14~9/4 11/18~3/8 9/5~11/17 大野・勝山地区 3/16~7/19 7/20~8/30 11/9~3/15 8/31~11/8 福井地区 3/6~7/11 7/12~9/4 11/23~3/5 9/5~11/22 ・構造体強度補正值 () N ・高炉セメントB種 地区 補正值 3N 暑中6N 6N 福井・丹南地区 4/2~7/13 7/14~9/4 10/21~4/1 9/5~10/20 大野・勝山地区 4/6~7/19 7/20~8/30 10/14~4/5 8/31~10/13 福井地区 4/2~7/11 7/12~9/4 10/25~4/1 9/5~10/24 ・構造体強度補正值 () N

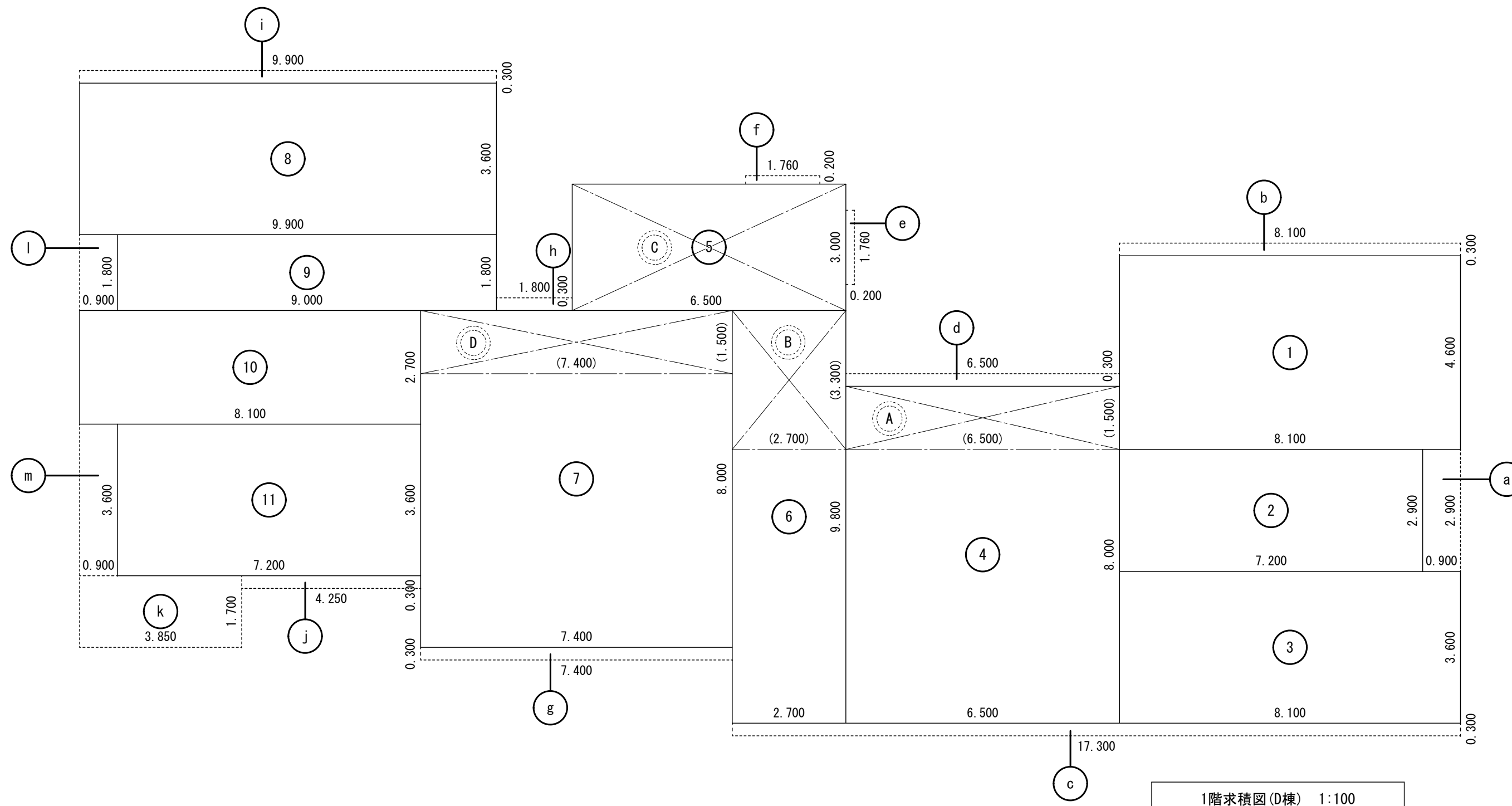
9 環境配慮 改修工事	1. 一般事項	<p>関係法令等の遵守 大気汚染防止法、労働安全衛生法、石棉障害予防規則（以下石棉則） 特定化学物質等障害予防規則、廃棄物の処理および清掃に関する法律（以下廃掃法） 福井県アスベストによる健康被害の防止に関する条例 既存建築物の吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術指針・同解説 建設・解体工事に伴うアスベスト廃棄物処理に関する技術指針・同解説</p> <p>施工調査 [9.1.1] ※アスベスト含有建材の有無 目視、および既存資料による製造年等の確認 ・建材中の石棉含有率の分析 分析方法 ・JIS A 1481-2 または JIS A 1481-3による 分析結果については、監督職員に報告すること。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料名</th> <th>定性分析</th> <th>定量分析</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>・(試験数:)</td> <td>・(試験数:)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・(試験数:)</td> <td>・(試験数:)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・(試験数:)</td> <td>・(試験数:)</td> </tr> </tbody> </table> <p>採取箇所は図示</p> <p>アスベスト粉じん濃度測定 ・行う（石棉含有率5質量%超） 測定室（ ）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>適用 測定名称</th> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定点 (各施工箇所ごと)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・測定1</td> <td>処理作業前</td> <td>処理作業室</td> <td>各2点～5点</td> <td>(注)1</td> </tr> <tr> <td>・測定2</td> <td>処理作業前</td> <td>調査対象室外部の付近</td> <td>計2点</td> <td>大気</td> </tr> <tr> <td>・測定3</td> <td>処理作業中</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点～5点</td> <td>(注)1</td> </tr> <tr> <td>・測定4</td> <td>処理作業中</td> <td>負圧・除じん装置の 排出吹出し口 以下の位置</td> <td>出口吹出し風速1m/sec 各2点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・測定5</td> <td>処理作業後</td> <td>処理作業室外(敷地境界)</td> <td>4方向各1点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・測定6</td> <td>処理作業後 (シート養生中)</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・測定7</td> <td>処理作業後シート</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点～5点</td> <td>(注)1</td> </tr> <tr> <td>・測定8</td> <td>撤去後1週間以降</td> <td>調査対象室外部の付近</td> <td>計2点</td> <td>大気</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)1 各施工箇所ごとの作業室面積が50㎡以下までは2点、300㎡以下までは3点、1000㎡以下までは4点、1000㎡を超えるものは5点とする。</p> <p>・行う（石棉含有率5質量%以下） 測定室（ ）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>適用 測定名称</th> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定点 (各施工箇所ごと)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・測定1</td> <td>処理作業前</td> <td>処理作業室</td> <td>各1点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・測定2</td> <td>処理作業前</td> <td>調査対象室外部の付近</td> <td>計1点</td> <td>大気</td> </tr> <tr> <td>・測定3</td> <td>処理作業中</td> <td>処理作業室内</td> <td>各1点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・測定4</td> <td>処理作業中</td> <td>負圧・除じん装置の 排出吹出し口 以下の位置</td> <td>各1点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・測定5</td> <td>処理作業後</td> <td>処理作業室外(敷地境界)</td> <td>計1点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・測定6</td> <td>処理作業後 (シート養生中)</td> <td>処理作業室内</td> <td>各1点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・測定7</td> <td>処理作業後シート</td> <td>処理作業室内</td> <td>各1点</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・測定8</td> <td>撤去後1週間以降</td> <td>調査対象室外部の付近</td> <td>計2点</td> <td>大気</td> </tr> </tbody> </table> <p>アスベスト粉じん濃度測定方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>測定3</th> <th>測定1, 2, 4, 6, 7, 8</th> <th>測定5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計数機器</td> <td>位相差顕微鏡</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>メンブレンフィルタ の直径</td> <td>25mm</td> <td></td> <td>47mm</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引流速</td> <td>1 l/min</td> <td>5 l/min</td> <td>10 l/min</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引時間</td> <td>5min</td> <td>120min</td> <td>240min</td> </tr> <tr> <td>試料の透明化</td> <td colspan="3">アセトン・トリアセトン法またはシュウ酸ジエチル法</td> </tr> <tr> <td>計数条件</td> <td colspan="3">総アスベスト繊維数200本または視野数50視野</td> </tr> <tr> <td>計数アスベスト</td> <td colspan="3">直径3μm未満、長さ5μm以上、長さど直径比3:1以上</td> </tr> <tr> <td>定量限界</td> <td>5.0 f/l</td> <td>0.5 f/l</td> <td>0.3 f/l</td> </tr> </tbody> </table> <p>処理を行う吹付けアスベストの仕様等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料名</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>処理を行う範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>※図示</td> </tr> </tbody> </table> <p>処理工法 [9.1.1][9.1.3] ※除去工法（固形化・行う） ・封じ込め工法 劣化の著しい部分、下地との接着が不良な部分については改修標準仕様書9.1.3により除去し、粉じん飛散防止処理剤を用いて封じ込め処理を行う 封じ込めの工法は施工業者の仕様により、除去物および汚染物質の処理等は改修標準仕様書9.1.3 (b) (2)による なお、施工にあたっては、改修標準仕様書9.1.2除去工事共通事項を適用する。 ・囲い込み処理</p> <p>施工調査等 ※行う [9.1.1]</p> <p>専門工業者が工事に相応した技術を有することを証明する資料 [9.1.2.] 「吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術」（民間開発建設技術の技術審査・証明事業認定規定）の証明書または、同等の技術を有することを証明する資料（監指）</p> <p>石棉作業主任者 石棉障害予防規則に基づき、石棉作業主任者の選定を行う。なお、石棉作業主任者は、石棉作業主任者技能講習修了者または平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者の有資格者とする。</p> <p>除去作業 1. 施工業者より下記の科目について、アスベスト処理に関する衛生のための特別の教育を受けていること。（石棉則） イ 石棉等の有害性 ロ 石棉等の使用状況 ハ 石棉等の粉じんの飛散を抑制するための措置 ニ 保護具の使用状況 ホ 前各号に掲げるもののほか、石棉等のばく露防止に關し必要な事項 2. 以下の健康診断を受診し、診断の結果、肺機能に異常がない者とする。 イ 労働安全衛生法に基づく一般健康診断（1年以内に受診） ロ 石棉障害予防規則に基づく特殊健康診断（6カ月以内に受診） ハ じん肺法に基づくじん肺健康診断（3年以内に受診）</p>	材料名	定性分析	定量分析		・(試験数:)	・(試験数:)		・(試験数:)	・(試験数:)		・(試験数:)	・(試験数:)	適用 測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)	備考	・測定1	処理作業前	処理作業室	各2点～5点	(注)1	・測定2	処理作業前	調査対象室外部の付近	計2点	大気	・測定3	処理作業中	処理作業室内	各2点～5点	(注)1	・測定4	処理作業中	負圧・除じん装置の 排出吹出し口 以下の位置	出口吹出し風速1m/sec 各2点	—	・測定5	処理作業後	処理作業室外(敷地境界)	4方向各1点	—	・測定6	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	各2点	—	・測定7	処理作業後シート	処理作業室内	各2点～5点	(注)1	・測定8	撤去後1週間以降	調査対象室外部の付近	計2点	大気	適用 測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)	備考	・測定1	処理作業前	処理作業室	各1点	—	・測定2	処理作業前	調査対象室外部の付近	計1点	大気	・測定3	処理作業中	処理作業室内	各1点	—	・測定4	処理作業中	負圧・除じん装置の 排出吹出し口 以下の位置	各1点	—	・測定5	処理作業後	処理作業室外(敷地境界)	計1点	—	・測定6	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	各1点	—	・測定7	処理作業後シート	処理作業室内	各1点	—	・測定8	撤去後1週間以降	調査対象室外部の付近	計2点	大気	名称	測定3	測定1, 2, 4, 6, 7, 8	測定5	計数機器	位相差顕微鏡			メンブレンフィルタ の直径	25mm		47mm	試料の吸引流速	1 l/min	5 l/min	10 l/min	試料の吸引時間	5min	120min	240min	試料の透明化	アセトン・トリアセトン法またはシュウ酸ジエチル法			計数条件	総アスベスト繊維数200本または視野数50視野			計数アスベスト	直径3μm未満、長さ5μm以上、長さど直径比3:1以上			定量限界	5.0 f/l	0.5 f/l	0.3 f/l	材料名	厚さ (mm)	処理を行う範囲			※図示	<p>施工計画書 施工計画書に下記事項についても記載する。（石棉則） 1. 作業の方法および手順 2. 石綿粉じんの飛散を防止し、また制御する方法 3. 労働者への石綿粉じんのばく露を防止する方法</p> <p>監9.1.2 (a) (ii) の①のその他必要な事項として下記の書類を添付する。 1. 石棉作業主任者が特定化学物質等作業主任者技術講習修了証の写し 2. 特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有することを証明する書類の写し 3. 委託する特別管理産業廃棄物処理業者の都道府県知事の許可書の写し</p> <p>官公署その他への手続き 1. 労働安全衛生法の工事計画届（労働基準監督署） 2. 石棉障害予防規則の作業届（労働基準監督署） 3. 大気汚染防止法の特定粉じん排出等作業実施届（知事） 4. アスベスト排出等作業等完了届出書（知事）—県条例</p> <p>アスベストの除去処理（密封処理） [9.1.3] 保管、表示（廃掃法） アスベスト廃棄物は保管にあたって、他の廃棄物と分別する。アスベスト廃棄物を収納する袋等に、個々にアスベスト廃棄物である旨を表示する。 除去したアスベスト含有吹付け材等の飛散防止措置 ※湿潤化・固形化</p> <p>収集・運搬（廃掃法） アスベスト廃棄物の収集・運搬にあたっては、他の廃棄物と混載してはならない。 廃棄物が飛散、流出しないように措置を講じる。</p> <p>注) アスベスト廃棄物とは吹付けアスベスト除去物、仮設養生プラスチックシート、HEPAフィルター、プラスチック系特殊作業服、靴カバー、室内掃除用スポンジ等を含む。</p> <p>最終処分 アスベスト廃棄物の最終処分は、埋立処分により行うこととし、都道府県知事に許可を受けた最終処分場で行う。</p> <p>アスベスト含有建材除去後の仕上げ ※図示（耐火被覆および断熱材の除去後は、除去材料同等以上の性能の仕上材とする）</p> <p>3. アスベスト含有保温材等の除去</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料名</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>処理を行う範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>※図示</td> </tr> </tbody> </table> <p>施工調査等 ※行う [9.1.1]</p> <p>アスベスト粉じん濃度測定 ※行わない・行う</p> <p>石棉作業主任者 石棉障害予防規則に基づき、石棉作業主任者の選定を行う。なお、石棉作業主任者は、石棉作業主任者技能講習修了者または平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者の有資格者とする。</p> <p>特別管理産業廃棄物管理責任者 保温材等については、排出事業者は特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有するものを選任し管理させる。</p> <p>除去工法 ・破砕して除去 ・手ばらし 除去したアスベスト含有保温材等の材等の飛散防止措置 ※湿潤化・固形化</p> <p>官公署その他への手続き 1. 労働安全衛生法の工事計画届（労働基準監督署） 2. 石棉障害予防規則の作業届（労働基準監督署） 3. 大気汚染防止法の特定粉じん排出等作業実施届（知事） 4. アスベスト排出等作業等完了届出書（知事）—県条例</p> <p>除去物および汚染物等の処分等 保温材等については、改修標準仕様書9.1.3(c)による。</p> <p>アスベスト含有建材除去後の仕上げ ※図示</p> <p>4. アスベスト含有成形板の除去</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料名</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>処理を行う範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>※図示</td> </tr> </tbody> </table> <p>施工調査等 ※行う [9.1.1]</p> <p>アスベスト粉じん濃度測定 ※行わない・行う</p> <p>石棉作業主任者 石棉障害予防規則に基づき、石棉作業主任者の選定を行う。なお、石棉作業主任者は、石棉作業主任者技能講習修了者又は平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者の有資格者とする。</p> <p>表示・掲示 改修標準仕様書9.1.2(f)による表示・掲示を行う。</p> <p>アスベスト含有建材除去後の仕上げ ※図示</p> <p>5. 外断熱改修工事[G] [9.3.2]</p> <p>断熱材 断熱材の種類 断熱材の厚さ (mm) 施工箇所 ・図示 ・ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 外装材 種類 () 防火性能 ()</p> <p>既存外壁の措置 既存外壁仕上げ材の撤去 ・あり ・なし 下地面の清掃 ・行う ・行わない [9.3.3]</p>	材料名	厚さ (mm)	処理を行う範囲			※図示	材料名	厚さ (mm)	処理を行う範囲			※図示	<p>6. ガラス改修工事</p> <p>複層ガラス [9.4.2] 材料板ガラスの種類及び厚さの組み合わせ並びに複層ガラスの厚さ ・建具表による 断熱性能による区分 ・T1・T2・T3・T4・T5・T6 日射取得性、日射透へい性による区分 ・G・S 乾燥気体の種類 ・空気・アルゴン</p> <p>7. 断熱材 [G]</p> <p>ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂またはメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆</p> <p>・断熱材打込み工法 [9.5.2] 断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類 厚さ (mm) 施工箇所 ・断熱材現場発泡工法 [9.5.3] 断熱材の種類 ・A種1 ・A種1H 吹付け厚さ (mm) ・25 ・30 施工箇所 ※窓回り等の断熱材補修部分、ルーフトレイン回りの床版下等、部分的に後張りとしなければならぬ箇所 ・図示 ・現場発泡断熱材（品質・性能）、（試験方法） ※建築材料等品質性能表による ・断熱材後張り工法 [9.5.4] 断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類 厚さ (mm) 断熱材にせつこうボード等を張り付けたパネル （材質 厚さ mm)</p> <p>8. 屋上緑化改修工事 [G]</p> <p>植栽基盤および材料 [9.6.1~4] ・屋上緑化軽量システム 芝および地被類の樹種ならびに種類等 ※図示 見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等 ※図示 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1.15・1.3）倍の風圧力に対応した工法 かん水装置 ・設ける（別途機械設備工事による） ・設けない 既存保護層の撤去 ・行う</p> <p>新植芝及び地被類の枯補償 ※引き渡し日から1年 [9.6.4]</p> <p>9. 既設舗装の撤去および再利用 [9.7.2] 既設舗装の撤去 ・行う 既設舗装の再利用 ・行う</p> <p>10. 路床 [9.7.3] (22.2.2~3) 凍上抑制層 ・適用する ※適用しない 厚さ (mm) ・150 材料 ・ フィルター層 ・適用する ※適用しない 厚さ (mm) 車道部 ※150 歩道部 ※50 材料 ・ 路床安定処理 ・適用する（方法 ） ※適用しない 砂の粒度試験 ・行う ※行わない 盛土用材料 [表9.7.1] ・A種 ※B種[G] [環] ・C種[G] [環] ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土[G] [環]</p> <p>路床土の支持力比（CBR）試験 ・行う ※行わない [9.7.3] (9.2.5) 現場CBR試験 ・行う ※行わない 路床の締固め試験 ・行う ※行わない</p> <p>11. 路盤 [9.7.4] (22.3.2~3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">舗装の種類</th> <th colspan="2">路盤の厚さ (cm)</th> <th rowspan="2">路盤材料</th> </tr> <tr> <th>車道部</th> <th>歩道部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・アスファルト舗装</td> <td>・10・15・25・35</td> <td>10</td> <td>※再生クラッシュラン [G]</td> </tr> <tr> <td>・インターロッキングブロック舗装</td> <td>・10・15・25</td> <td>10</td> <td>・クラッシュラン</td> </tr> <tr> <td>・コンクリート平板舗装</td> <td></td> <td>10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>透水性アスファルト舗装に用いる路盤材料は透水性の高いものとする</p> <p>12. アスファルト舗装 (22.4.2) (22.4.3) (22.4.4) (表22.4.6) 基層（車道部） ・適用する ※適用しない 材料 アスファルト ・ストレータスアスファルト ※再生アスファルト [G] 骨材 ・砕石 ※アスファルトコンクリート再生骨材 [G]</p> <p>加熱アスファルト混合物等の種類 (22.4.4) (表22.4.6) 表層 ・細粒度アスファルト混合物 (13) ・粗粒度アスファルト混合物 (13) 基層 ・粗粒度アスファルト混合物 (20)</p> <p>シーコート ・適用する ※適用しない (22.4.5) アスファルト混合物の抽出試験 ・行う ※行わない (22.4.6)</p> <p>(22.9.2~22.9.3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>舗装</th> <th>種類</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・コンクリート 平板舗装</td> <td>※普通平板 (N) ・カラー平板 (C) ・洗出平板 (W) ・縦石平板 (S)</td> <td>※300角 ・</td> <td>※60 ・</td> <td>目地材 ※砂 ・モルタル</td> </tr> <tr> <td>・インターロッキング ブロック舗装</td> <td>※普通ブロック ・透水性ブロック</td> <td></td> <td>車道部 ※80 歩道部 ※60</td> <td>色彩および表面加工 ※標準品 ・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・植生ブロック</td> <td></td> <td>※80 ・100</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ジオテキスタイル ※適用しない ・適用する (22.9.3) 品質 ()</p> <p>※通行の支障となる水たまりを生じない程度</p>	舗装の種類	路盤の厚さ (cm)		路盤材料	車道部	歩道部	・アスファルト舗装	・10・15・25・35	10	※再生クラッシュラン [G]	・インターロッキングブロック舗装	・10・15・25	10	・クラッシュラン	・コンクリート平板舗装		10		舗装	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備考	・コンクリート 平板舗装	※普通平板 (N) ・カラー平板 (C) ・洗出平板 (W) ・縦石平板 (S)	※300角 ・	※60 ・	目地材 ※砂 ・モルタル	・インターロッキング ブロック舗装	※普通ブロック ・透水性ブロック		車道部 ※80 歩道部 ※60	色彩および表面加工 ※標準品 ・		・植生ブロック		※80 ・100		<p>工事名称 兼定島公舎屋根・外壁改修工事 (D棟・E棟)</p> <p>図面番号 A-05</p> <p>図面名称 建築改修工事特記仕様書(その5)</p> <p>縮尺</p>
	材料名	定性分析	定量分析																																																																																																																																																																																																				
	・(試験数:)	・(試験数:)																																																																																																																																																																																																					
	・(試験数:)	・(試験数:)																																																																																																																																																																																																					
	・(試験数:)	・(試験数:)																																																																																																																																																																																																					
適用 測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)	備考																																																																																																																																																																																																			
・測定1	処理作業前	処理作業室	各2点～5点	(注)1																																																																																																																																																																																																			
・測定2	処理作業前	調査対象室外部の付近	計2点	大気																																																																																																																																																																																																			
・測定3	処理作業中	処理作業室内	各2点～5点	(注)1																																																																																																																																																																																																			
・測定4	処理作業中	負圧・除じん装置の 排出吹出し口 以下の位置	出口吹出し風速1m/sec 各2点	—																																																																																																																																																																																																			
・測定5	処理作業後	処理作業室外(敷地境界)	4方向各1点	—																																																																																																																																																																																																			
・測定6	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	各2点	—																																																																																																																																																																																																			
・測定7	処理作業後シート	処理作業室内	各2点～5点	(注)1																																																																																																																																																																																																			
・測定8	撤去後1週間以降	調査対象室外部の付近	計2点	大気																																																																																																																																																																																																			
適用 測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)	備考																																																																																																																																																																																																			
・測定1	処理作業前	処理作業室	各1点	—																																																																																																																																																																																																			
・測定2	処理作業前	調査対象室外部の付近	計1点	大気																																																																																																																																																																																																			
・測定3	処理作業中	処理作業室内	各1点	—																																																																																																																																																																																																			
・測定4	処理作業中	負圧・除じん装置の 排出吹出し口 以下の位置	各1点	—																																																																																																																																																																																																			
・測定5	処理作業後	処理作業室外(敷地境界)	計1点	—																																																																																																																																																																																																			
・測定6	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	各1点	—																																																																																																																																																																																																			
・測定7	処理作業後シート	処理作業室内	各1点	—																																																																																																																																																																																																			
・測定8	撤去後1週間以降	調査対象室外部の付近	計2点	大気																																																																																																																																																																																																			
名称	測定3	測定1, 2, 4, 6, 7, 8	測定5																																																																																																																																																																																																				
計数機器	位相差顕微鏡																																																																																																																																																																																																						
メンブレンフィルタ の直径	25mm		47mm																																																																																																																																																																																																				
試料の吸引流速	1 l/min	5 l/min	10 l/min																																																																																																																																																																																																				
試料の吸引時間	5min	120min	240min																																																																																																																																																																																																				
試料の透明化	アセトン・トリアセトン法またはシュウ酸ジエチル法																																																																																																																																																																																																						
計数条件	総アスベスト繊維数200本または視野数50視野																																																																																																																																																																																																						
計数アスベスト	直径3μm未満、長さ5μm以上、長さど直径比3:1以上																																																																																																																																																																																																						
定量限界	5.0 f/l	0.5 f/l	0.3 f/l																																																																																																																																																																																																				
材料名	厚さ (mm)	処理を行う範囲																																																																																																																																																																																																					
		※図示																																																																																																																																																																																																					
材料名	厚さ (mm)	処理を行う範囲																																																																																																																																																																																																					
		※図示																																																																																																																																																																																																					
材料名	厚さ (mm)	処理を行う範囲																																																																																																																																																																																																					
		※図示																																																																																																																																																																																																					
舗装の種類	路盤の厚さ (cm)		路盤材料																																																																																																																																																																																																				
	車道部	歩道部																																																																																																																																																																																																					
・アスファルト舗装	・10・15・25・35	10	※再生クラッシュラン [G]																																																																																																																																																																																																				
・インターロッキングブロック舗装	・10・15・25	10	・クラッシュラン																																																																																																																																																																																																				
・コンクリート平板舗装		10																																																																																																																																																																																																					
舗装	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備考																																																																																																																																																																																																			
・コンクリート 平板舗装	※普通平板 (N) ・カラー平板 (C) ・洗出平板 (W) ・縦石平板 (S)	※300角 ・	※60 ・	目地材 ※砂 ・モルタル																																																																																																																																																																																																			
・インターロッキング ブロック舗装	※普通ブロック ・透水性ブロック		車道部 ※80 歩道部 ※60	色彩および表面加工 ※標準品 ・																																																																																																																																																																																																			
	・植生ブロック		※80 ・100																																																																																																																																																																																																				
年度別 R 6 6年 6月	公立大学法人 福井県立大学	<p>K M R 株式会社 木村建築事務所 1級建築士事務所 福井県 (株) 115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村憲一</p>	設計																																																																																																																																																																																																				



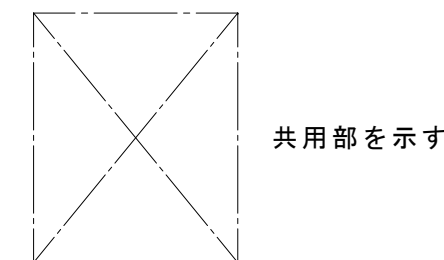
PH求積図(D棟) 1:100



2階求積図(D棟) 1:100



1階求積図(D棟) 1:100



記号	計算式 (m)	面積 (m ²)	
1	8.100 × 4.600	37.260000	
2	7.200 × 2.900	20.880000	
3	8.100 × 3.600	29.160000	
4	6.500 × 8.000	52.000000	
5	6.500 × 3.000	19.500000	
6	2.700 × 9.800	26.460000	
7	7.400 × 8.000	59.200000	
8	9.900 × 3.600	35.640000	
9	9.000 × 1.800	16.200000	
10	8.100 × 2.700	21.870000	
11	7.200 × 3.600	25.920000	
計		344.090000	
計(小数第2位未満切り捨て)			344.09

記号	計算式 (m)	面積 (m ²)	
A	6.500 × 1.500	9.750000	
B	2.700 × 3.300	8.910000	
C	6.500 × 3.000	19.500000	
D	7.400 × 1.500	11.100000	
計		49.260000	
計(小数第2位未満切り捨て)			49.26

記号	計算式 (m)	面積 (m ²)	
1階		344.090000	
1階 共用部		-49.260000	
2階		340.490000	
2階 共用部		-45.660000	
PH		15.900000	
PH 共用部		-15.900000	
計		589.660000	
計(小数第2位未満切り捨て)			589.66

記号	計算式 (m)	面積 (m ²)	
1	8.100 × 4.600	37.260000	
2	7.200 × 2.900	20.880000	
3	8.100 × 3.600	29.160000	
4	6.500 × 8.000	52.000000	
5	6.500 × 3.000	19.500000	
6	2.700 × 9.800	26.460000	
7	7.400 × 8.000	59.200000	
8	9.900 × 3.600	35.640000	
9	9.000 × 1.800	16.200000	
10	8.100 × 2.700	21.870000	
11	7.200 × 3.600	25.920000	
a	0.900 × 2.900	2.610000	
b	8.100 × 0.300	2.430000	
c	17.300 × 0.300	5.190000	
d	6.500 × 0.300	1.950000	
e	0.200 × 1.760	0.352000	
f	1.760 × 0.200	0.352000	
g	7.400 × 0.300	2.220000	
h	1.800 × 0.300	0.540000	
i	9.900 × 0.300	2.970000	
j	4.250 × 0.300	1.275000	
k	3.850 × 1.700	6.545000	
l	0.900 × 1.800	1.620000	
m	0.900 × 3.600	3.240000	
計		375.384000	
計(小数第2位未満切り捨て)			375.38

記号	計算式 (m)	面積 (m ²)	
1	8.100 × 4.600	37.260000	
2	7.200 × 2.900	20.880000	
3	8.100 × 3.600	29.160000	
4	6.500 × 8.000	52.000000	
6	2.700 × 9.800	26.460000	
7	7.400 × 8.000	59.200000	
8	9.900 × 3.600	35.640000	
9	9.000 × 1.800	16.200000	
10	8.100 × 2.700	21.870000	
11	7.200 × 3.600	25.920000	
12	5.300 × 3.000	15.900000	
計		344.090000	
計(小数第2位未満切り捨て)			340.49

記号	計算式 (m)	面積 (m ²)	
A	6.500 × 1.500	9.750000	
B	2.700 × 3.300	8.910000	
D	7.400 × 1.500	11.100000	
E	5.300 × 3.000	15.900000	
計		45.660000	
計(小数第2位未満切り捨て)			45.66

記号	計算式 (m)	面積 (m ²)	
12	5.300 × 3.000	15.900000	
計		15.900000	
計(小数第2位未満切り捨て)			15.90

記号	計算式 (m)	面積 (m ²)	
E	5.300 × 3.000	15.900000	
計		15.900000	
計(小数第2位未満切り捨て)			15.90

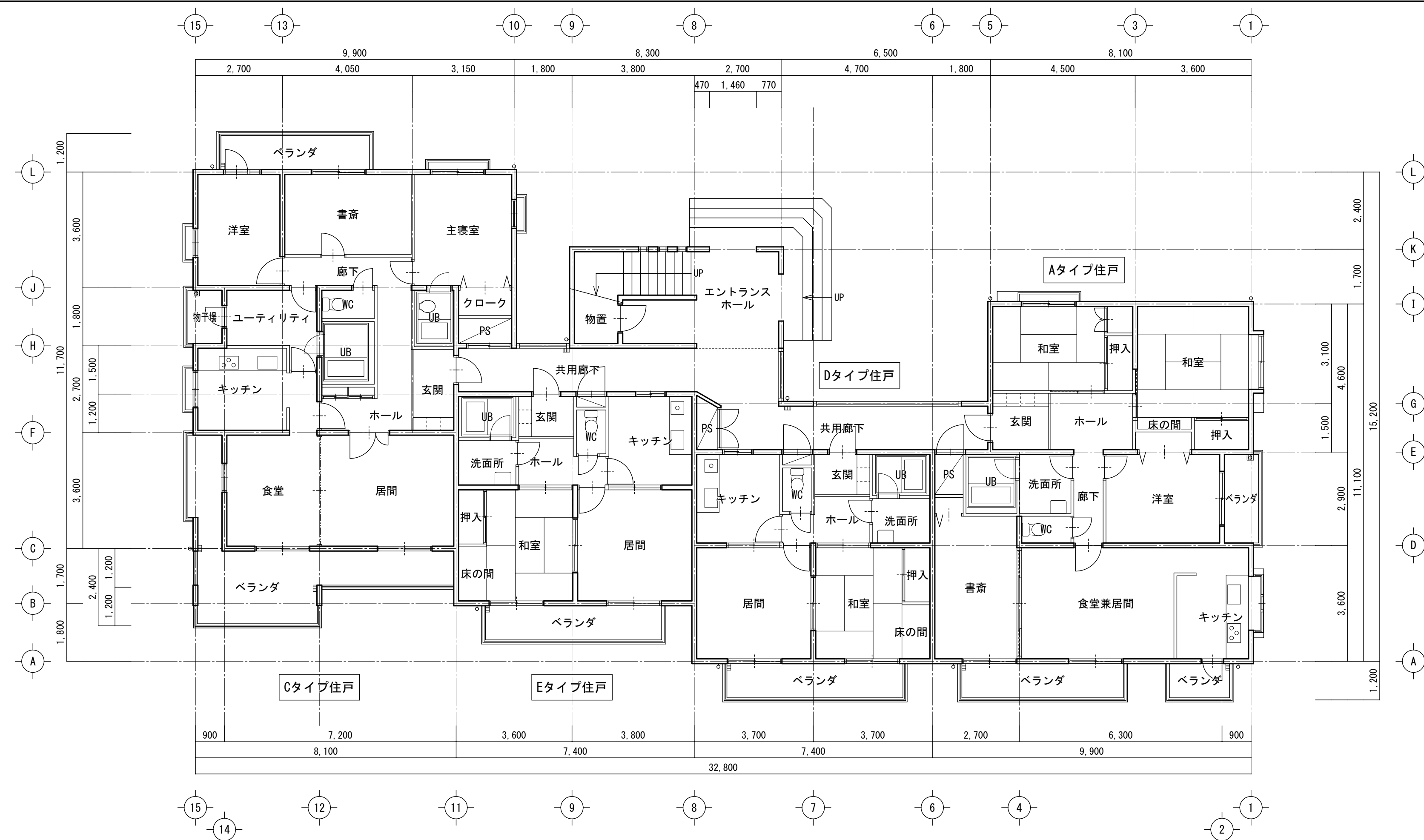
外部仕上表 (D棟、E棟共通)

屋根	改修前	コンクリート下地、アスファルトシングル葺き 残し ステンレス製ケラバ包みt0.3、ステンレス製軒水切りt0.3、ステンレス製壁取合い水切りt0.3 撤去 アルミ製笠木 取外し(再使用する)	外部建具	改修前	アルミサッシ 既存のまま 建具廻りシーリング 撤去
	改修後	高圧洗浄(高圧水洗工法)、アスファルトシングル葺き(カバー工法、下地調整共) ステンレス製ケラバ包みt0.3、ステンレス製軒水切りt0.3、ステンレス製壁取合い水切りt0.3 アルミ製笠木 再取付け		改修後	建具廻りシーリング(MS-2)15×10打替え
PH屋根 エントランスホール庇	改修前	断熱モルタルt40 残し、アスファルトルーフィング(22kg/巻)2層敷き 撤去、ガルバリウム鋼板t0.35AT横葺き 撤去	換気フード (ウェザーカバー)	改修前	ステンレス製深型フードφ100、150用 撤去
	改修後	アスファルトシングル葺き(撤去工法、下地調整共) ケラバ包み(ガルバリウム鋼板t0.5)、軒先金物、軒水切り(ガルバリウム鋼板t0.5)、壁取合い水切り(ガルバリウム鋼板t0.5)		改修後	ステンレス製深型フードφ100、150用(防虫網付き) ※延焼のおそれのある部分のφ150用:防火ダンパー付き
PHバルコニー防水	改修前	平部:コンクリート下地、アスファルト防水(B-2工法)、保護モルタルt60 残し、伸縮目地 撤去 立上り部:アスファルト防水(B-2工法) 撤去、保護モルタルt60 撤去	ルーフトレン	改修前	共用廊下:横引きドレンφ50 既存のまま ベランダ:横引きドレンφ50、中継ドレンφ75 既存のまま PHバルコニー:横引きドレンφ100 撤去
	改修後	平部:伸縮目地撤去跡補修(シール材充填、モルタル補修等)、高圧洗浄(水洗い工法)、塗膜防水POX工法(X-1) 立上り部:塗膜防水POX工法(X-2)、端部金物押え、アルミ水切り		改修後	PHバルコニー:改修用横引きドレンφ100
外壁、軒裏 (共用廊下、階段共) (ベランダ共)	改修前	コンクリート打放し下地、複数塗材RE(塗膜の劣化、剥離部分のみ撤去) 庇、窓台上:防水モルタル塗り 打継目地、化粧目地シーリング撤去 共用廊下天井:LGS下地、ロックウール吸音板t12 既存のまま 打継目地、化粧目地シーリング打替え	共用廊下 (床、笠木)	改修前	床:防水モルタル塗り 既存のまま 笠木付きアルミ製手すり:W225、H250 既存のまま
	改修後	高圧洗浄(高圧水洗工法)、下地調整(C-1)、複数塗材E 付着した汚れ等の除去、清掃も行うこと 庇、窓台上:高圧洗浄(高圧水洗工法)のみ		改修後	-
と い	改修前	軒樋:角型(ステンレス製吊り金物#600) 既存のまま(一部撤去) 縦樋:VP管φ100(ステンレス製掘み金物#1000) 既存のまま	その他外装	改修前	アルミ製物干し金物、避難ハッチ(ベランダ) 既存のまま アルミ製手すり:H250 既存のまま
	改修後	軒樋:角型(ステンレス製吊り金物#600) 一部新設 縦樋:下地調整、SOP塗替え		改修後	-

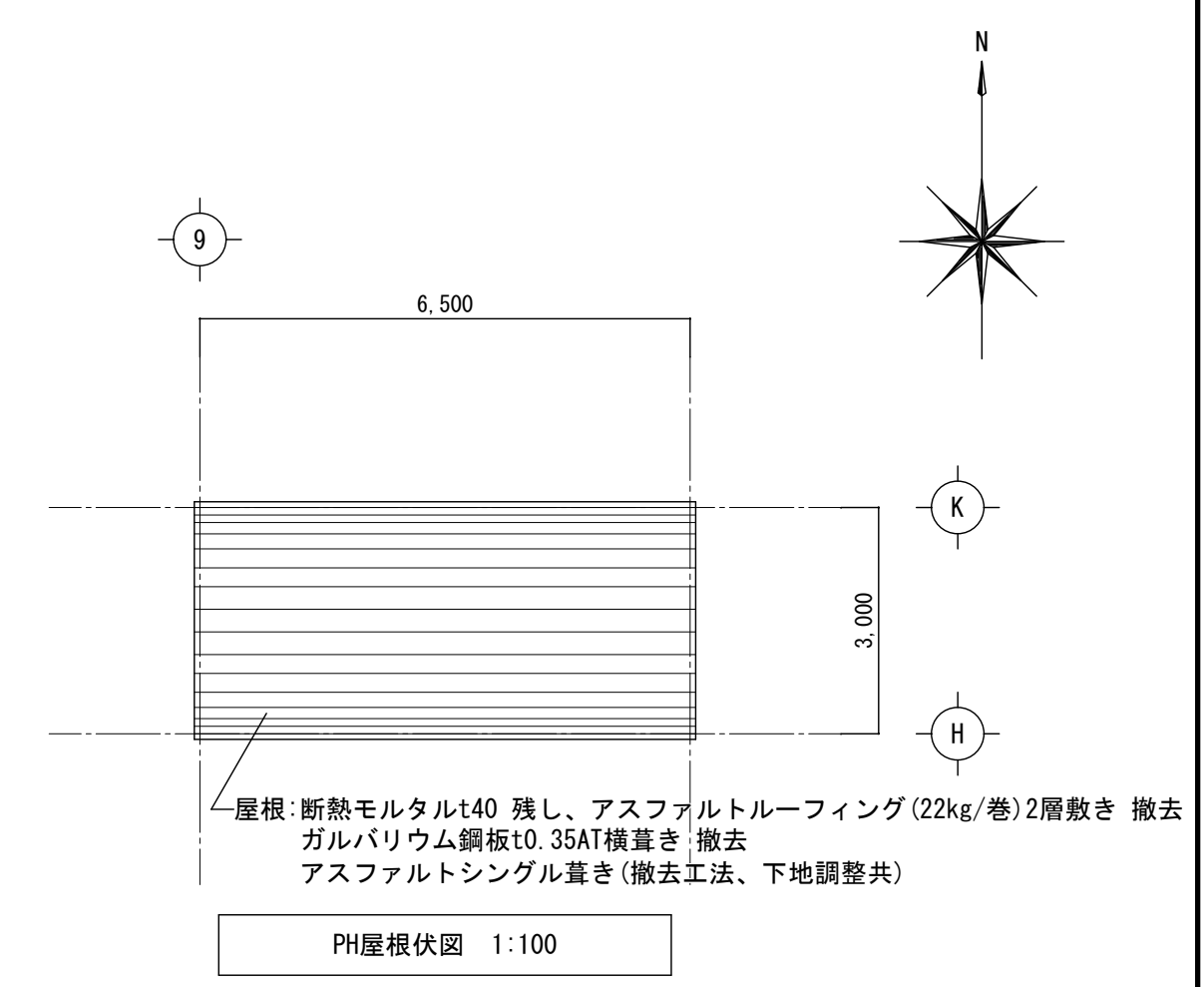
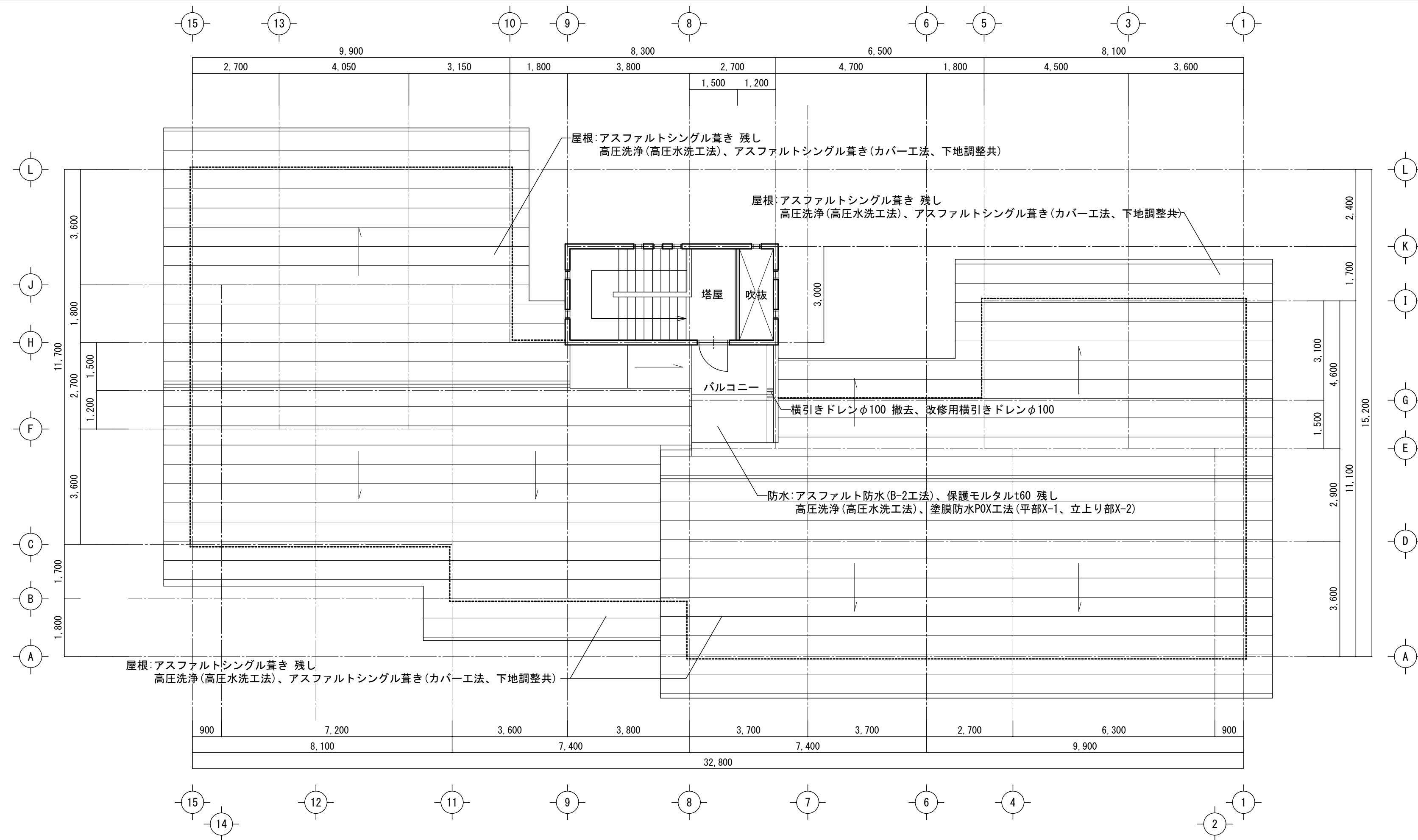
アスベスト含有建材について

既存外壁について、改修工事範囲にアスベスト含有建材は無いものとする。
(下地を含め外装材にアスベストが含まれていないことが調査済み)

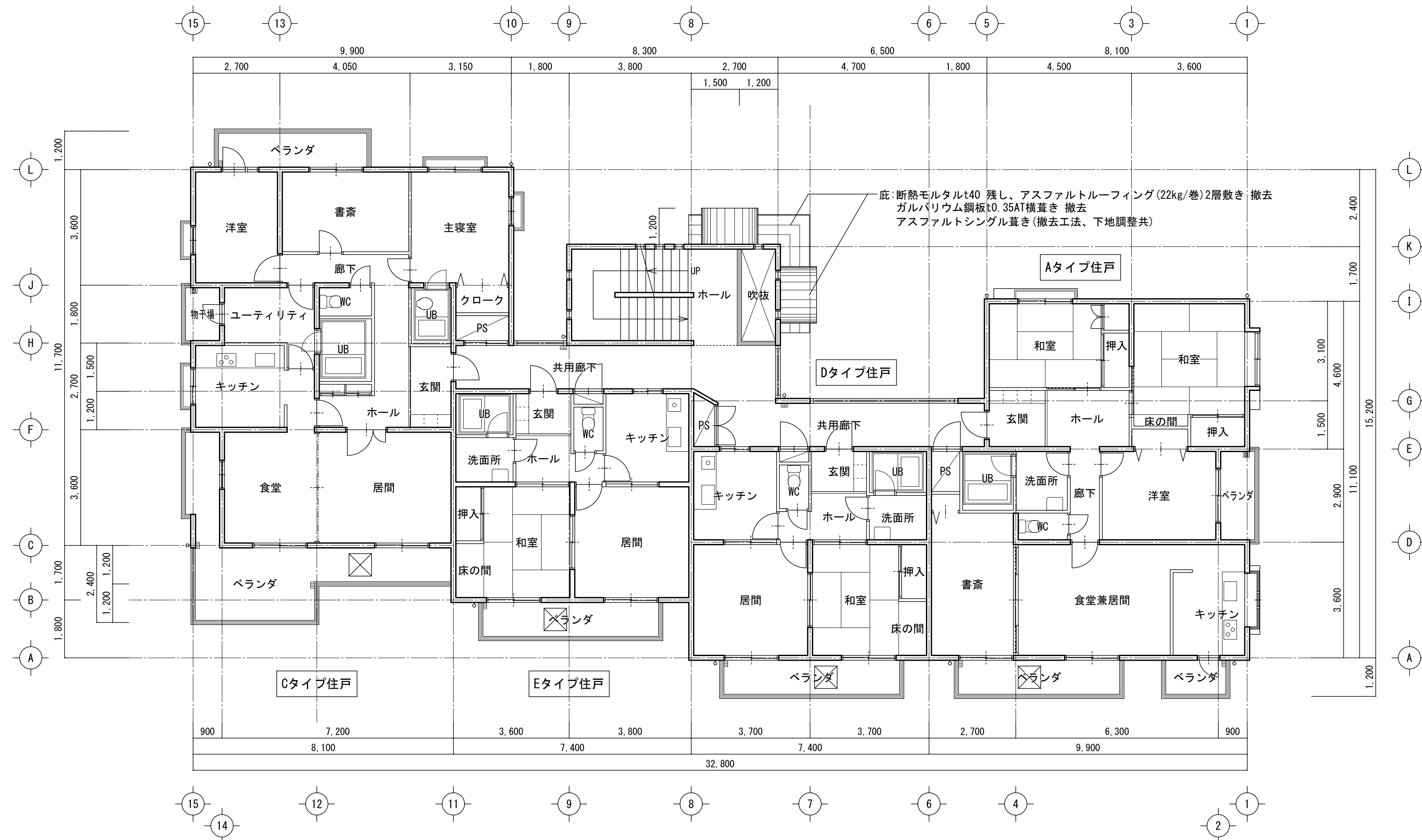
凡 例	特 記 事 項
SOP	合成樹脂調合ペイント塗り
LGS	軽量鉄骨壁(天井)
	1. 設計図面に記載の外壁補修数量は参考値であり、外壁調査により数量を確定する。
	2. 外壁調査の結果により防水モルタル(または断熱モルタル)に浮きが確認された場合、協議の上、モルタル塗り撤去、塗替えとする。
	3. 既存エアコンスリーブ(キャップ共)の破損、欠落部は撤去、新設する。
	4. 改修にあたり外壁面の露出配管、空調室外機等は、脱着なしで適切に養生すること。ただし改修に支障がある場合は、協議の上脱着、または盛替えを行うこと。
	5. アスファルトシングル葺き、および塗膜防水は責任施工とし、保証年限は10年とする。
	6. 脱着部材については、屋根改修、及び外壁改修に伴い障害となる部分を対象とする。そのまま改修可能な場合、脱着の必要はないものとする。
	7. 壁面の鳥や入居者所有の配管等は、受注者の責において取り扱うこと。



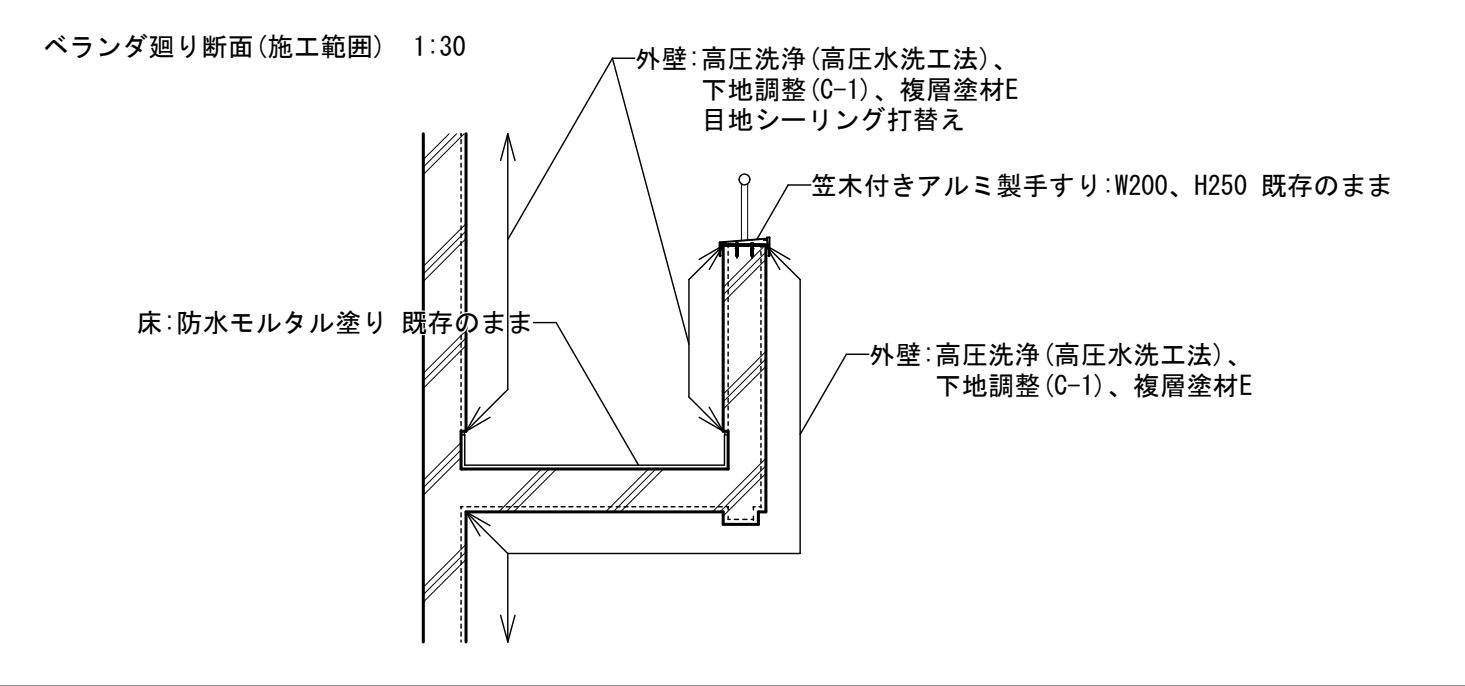
1階平面図(D棟) 1:100



PH平面図、屋根伏図(D棟) 1:100



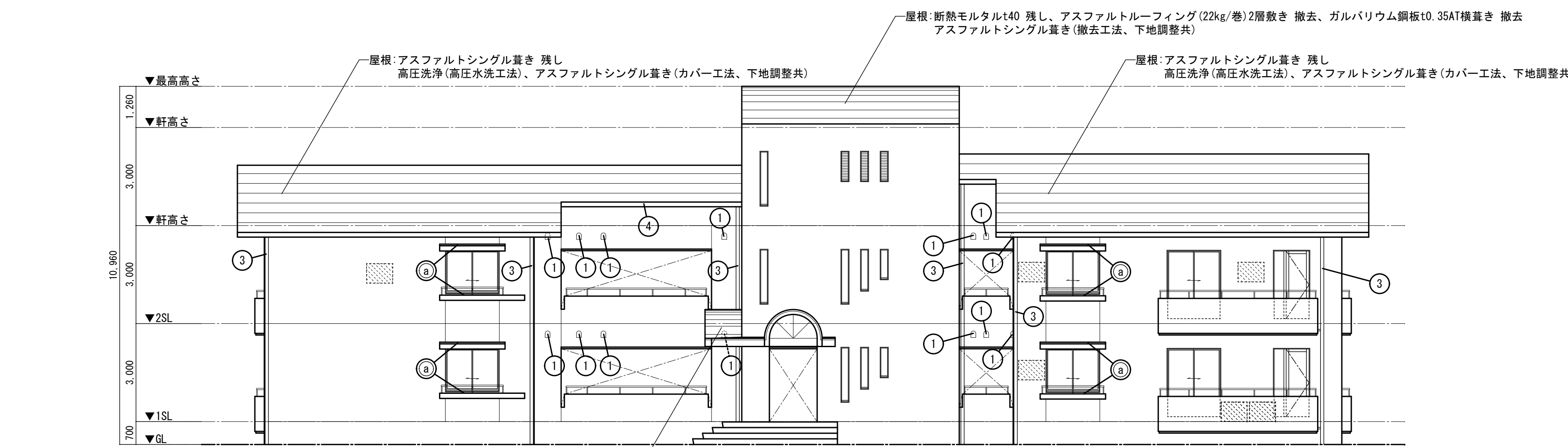
2階平面図(D棟) 1:100



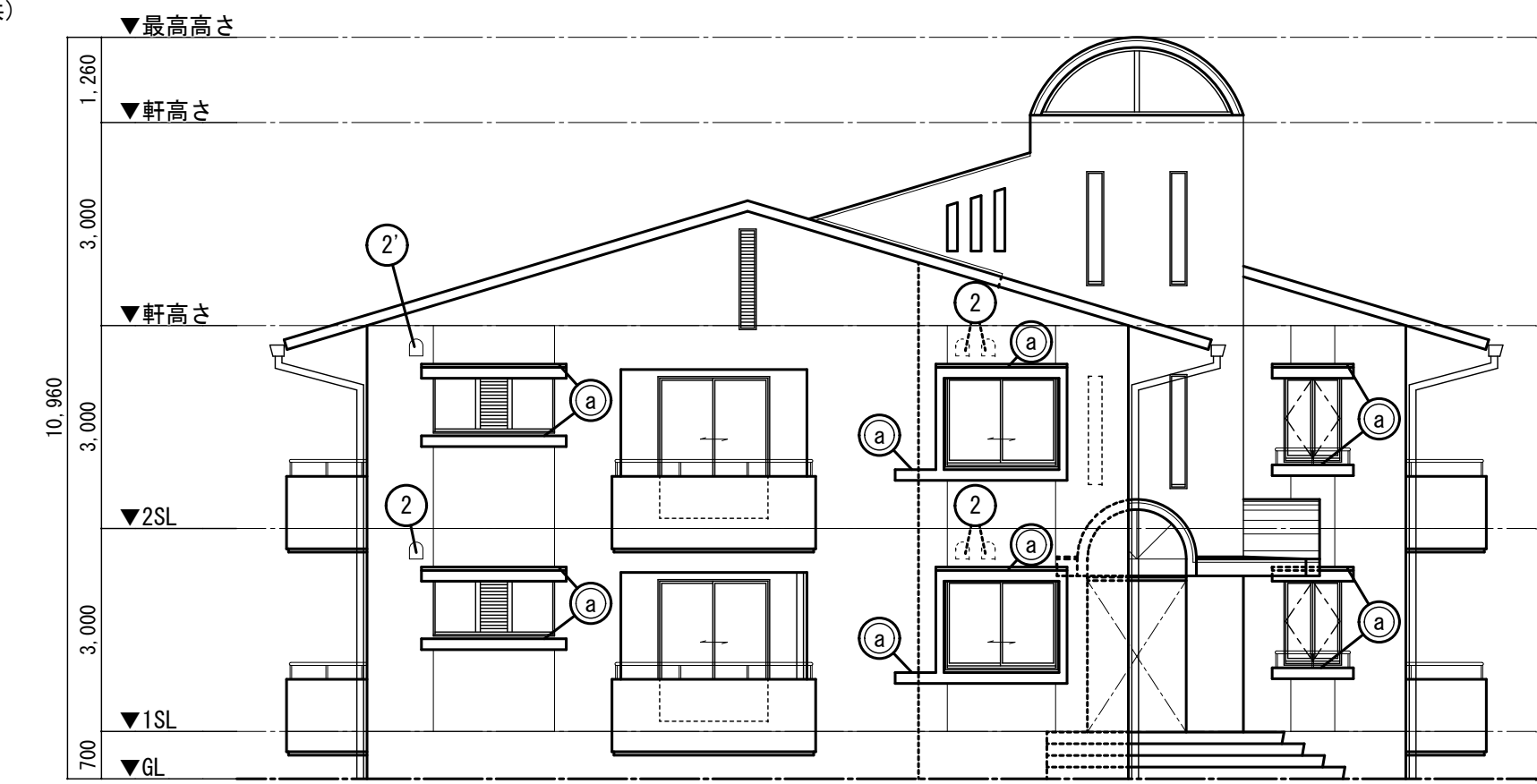
外壁改修仕様	改修割合 (参考値)
外壁全体: コンクリート打放し下地、複層塗材RE 残し ※ただし、塗膜の劣化、剥離部分のみ撤去 高圧洗浄(高圧水洗工法)、下地調整(C-1)、複層塗材E	100% (※ 2%)
底、窓台上: 防水モルタル塗り 残し 高圧洗浄(高圧水洗工法)のみ	
建具廻りシーリング (MS-2) 15×10打替え (換気ガラリ共)	
打継目地、化粧目地シーリング打替え	
ひび割れ補修: (幅0.2~1.0mm) 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	30%
補修 幅1.0mm以上) Uカットシーリング充填工法	2%
欠損部補修: エポキシ樹脂モルタル充填工法	2.5%

※外壁改修範囲(軒裏を含む)について、共用廊下、階段室、ベランダ部分も対象とする。

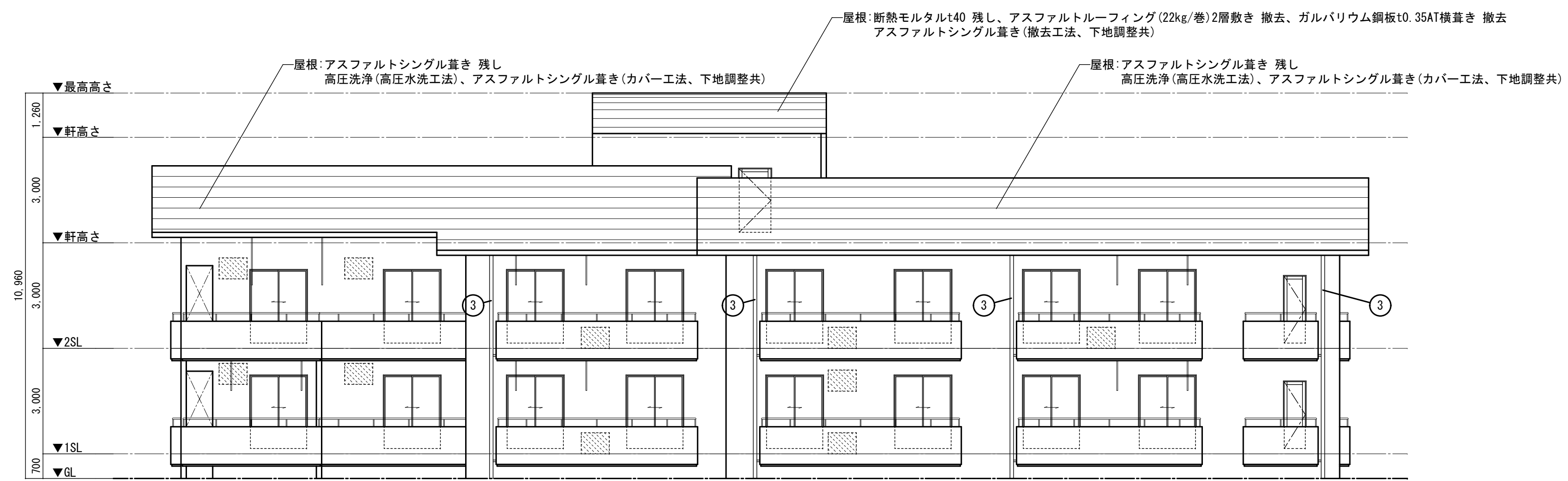
外壁仕上げ範囲凡例	
①	ステンレス製深型フードφ100用 撤去 ステンレス製深型フードφ100用(防虫網付き)
②	ステンレス製深型フードφ150用 撤去 ステンレス製深型フードφ150用(防虫網付き)
③	ステンレス製深型フードφ150用 撤去 ステンレス製深型フードφ150用(防火ダンパー、防虫網付き)
④	軒樋: VP管φ100 既存のまま、下地調整、SOP塗替え
⑤	軒樋: 角型(ステンレス製吊り金物φ600) 撤去 軒樋: 角型(ステンレス製吊り金物φ600)
⑥	既存底、窓台上: 防水モルタル塗り部分を示す (その他既存外壁: コンクリート打放し下地、複層塗材RE)
⑦	空調室外機 既存のまま (改修に支障がある場合は協議し脱着、または盛替え)
その他外装	特記無き軒樋、アルミ製物干し金物、避難ハッチ(ベランダ) アルミ製手すり: H250、笠木付きアルミ製手すり: W200、H250 既存のまま



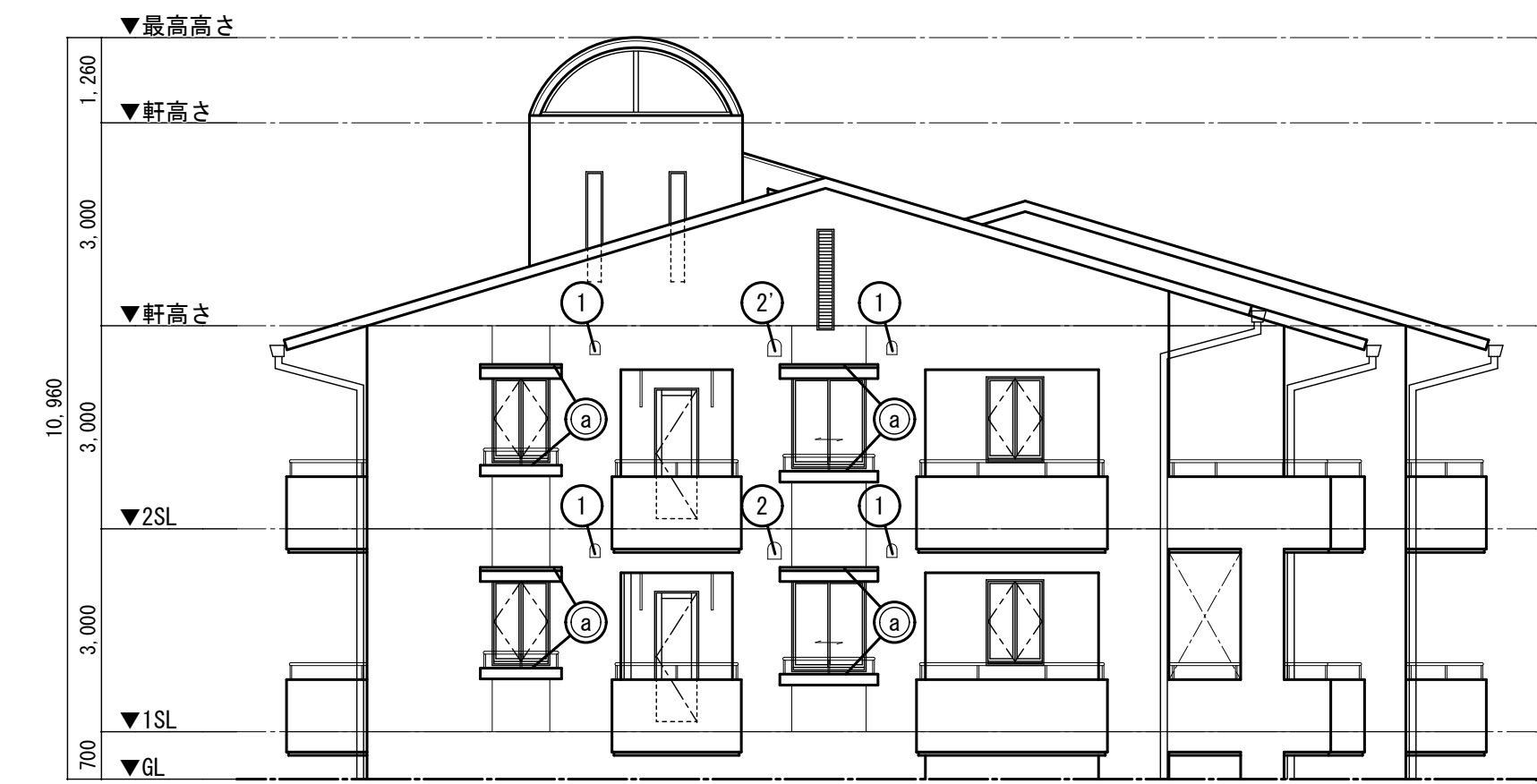
北立面図(D棟) 1:100



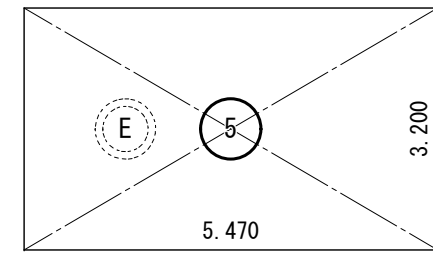
東立面図(D棟) 1:100



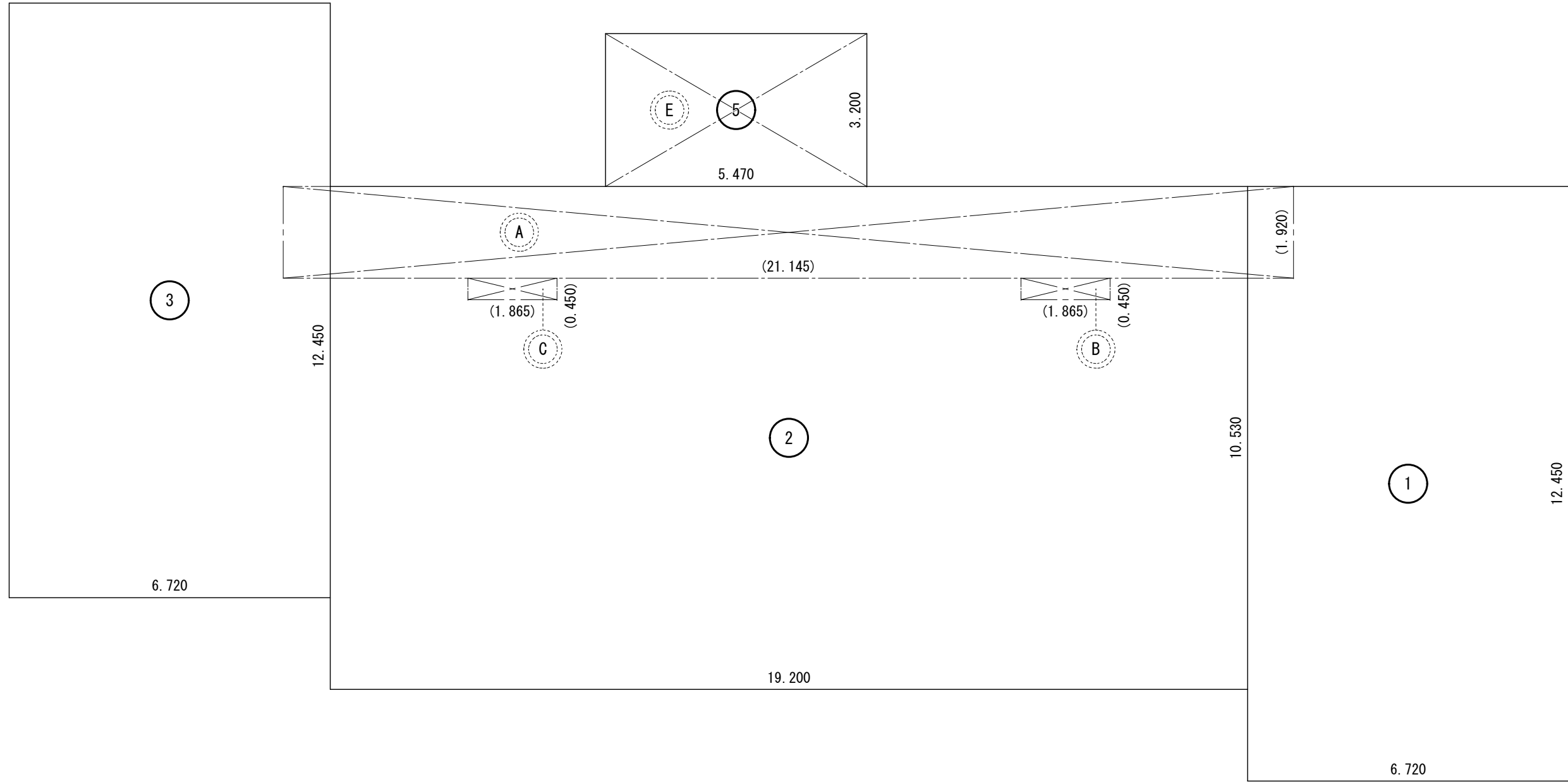
南立面図(D棟) 1:100



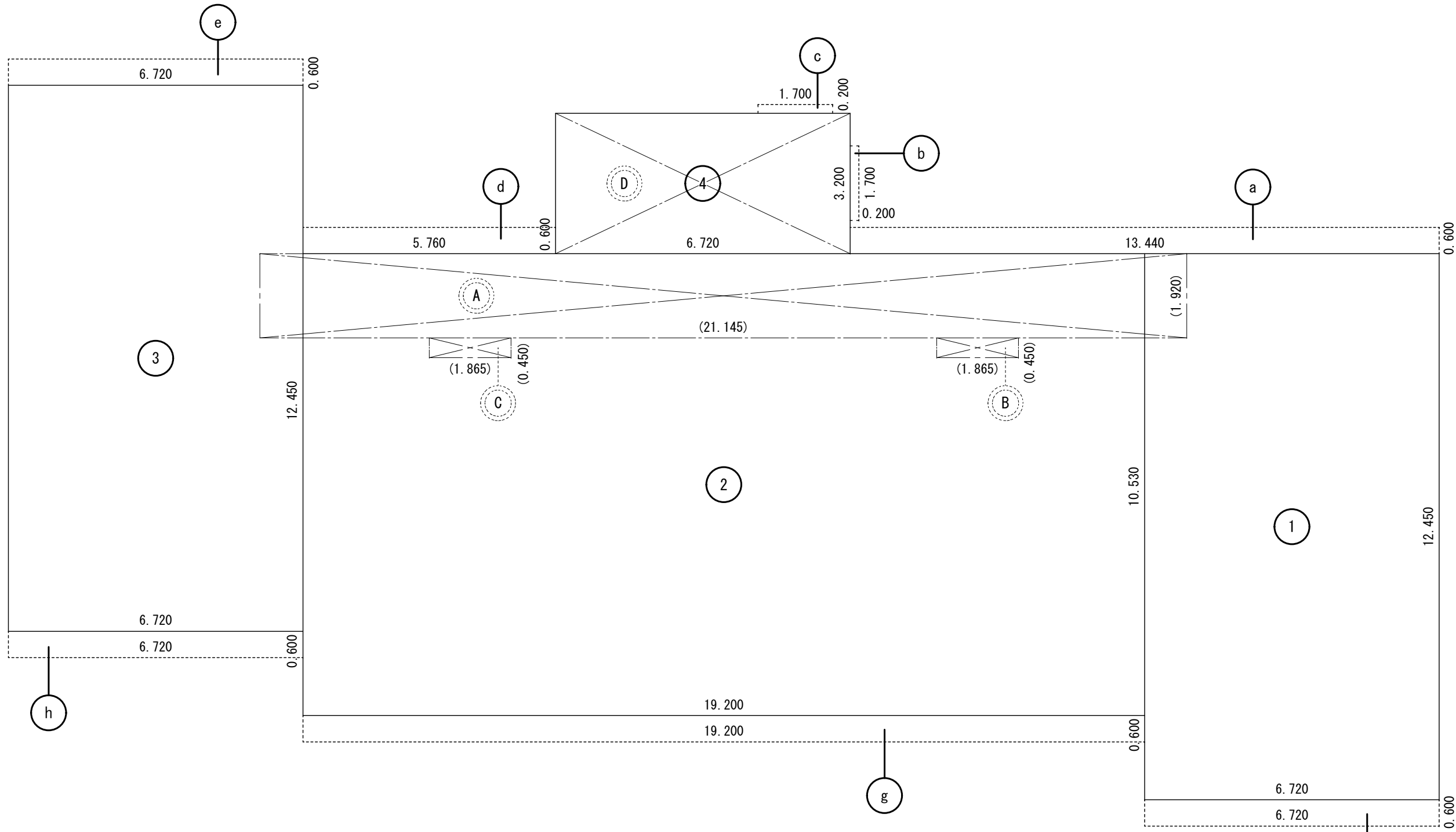
西立面図(D棟) 1:100



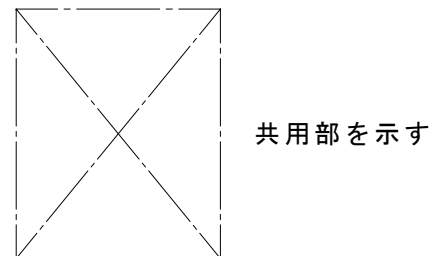
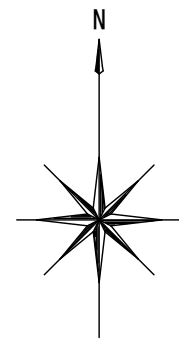
PH床積図(E棟) 1:100



2階床積図(E棟) 1:100



1階床積図(E棟) 1:100



記号	計算式(m)	面積(m ²)
1	6.720 × 12.450	83.664000
2	19.200 × 10.530	202.176000
3	6.720 × 12.450	83.664000
4	6.720 × 3.200	21.504000
a	13.440 × 0.600	8.064000
b	0.200 × 1.700	0.340000
c	1.700 × 0.200	0.340000
d	5.760 × 0.600	3.456000
e	6.720 × 0.600	4.032000
f	6.720 × 0.600	4.032000
g	19.200 × 0.600	11.520000
h	6.720 × 0.600	4.032000
計		426.824000
計(小数第2位未満切り捨て)		

記号	計算式(m)	面積(m ²)
1階		391.000000
1階 共用部		-63.780000
2階		387.000000
2階 共用部		-59.780000
PH		17.500000
PH 共用部		-17.500000
計		654.440000
計(小数第2位未満切り捨て)		

記号	計算式(m)	面積(m ²)
1	6.720 × 12.450	83.664000
2	19.200 × 10.530	202.176000
3	6.720 × 12.450	83.664000
4	6.720 × 3.200	21.504000
計		391.008000
計(小数第2位未満切り捨て)		

記号	計算式(m)	面積(m ²)
A	21.145 × 1.920	40.598400
B	1.865 × 0.450	0.839250
C	1.865 × 0.450	0.839250
D	6.720 × 3.200	21.504000
計		63.780900
計(小数第2位未満切り捨て)		

記号	計算式(m)	面積(m ²)
1	6.720 × 12.450	83.664000
2	19.200 × 10.530	202.176000
3	6.720 × 12.450	83.664000
5	5.470 × 3.200	17.504000
計		387.008000
計(小数第2位未満切り捨て)		

記号	計算式(m)	面積(m ²)
A	21.145 × 1.920	40.598400
B	1.865 × 0.450	0.839250
C	1.865 × 0.450	0.839250
E	5.470 × 3.200	17.504000
計		59.780900
計(小数第2位未満切り捨て)		

記号	計算式(m)	面積(m ²)
5	5.470 × 3.200	17.504000
計		17.504000
計(小数第2位未満切り捨て)		

記号	計算式(m)	面積(m ²)
E	5.470 × 3.200	17.504000
計		17.504000
計(小数第2位未満切り捨て)		

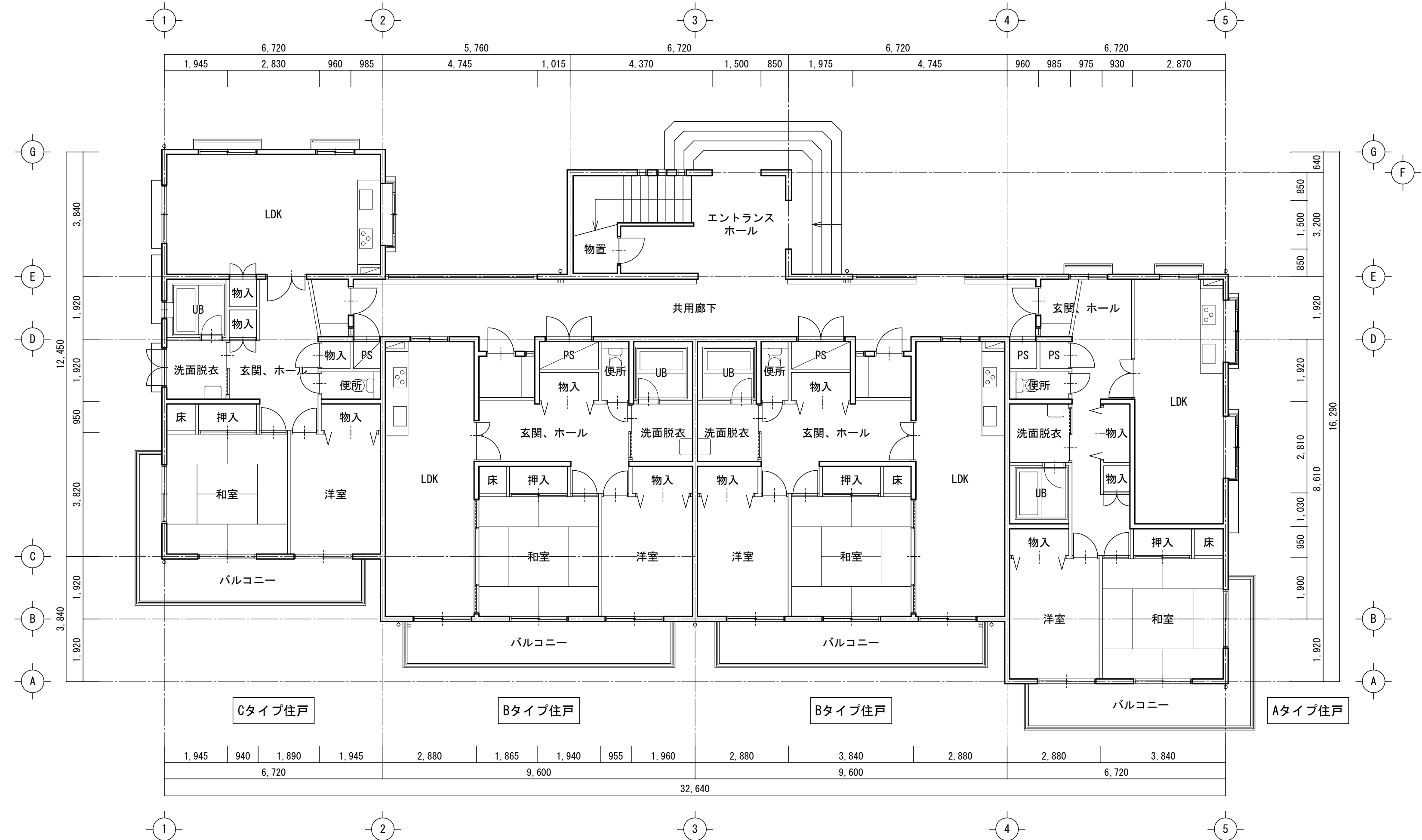
外部仕上表 (D棟、E棟共通)

屋根	改修前	コンクリート下地、アスファルトシングル葺き 残し ステンレス製ケラバ包みt0.3、ステンレス製軒水切りt0.3、ステンレス製壁取合い水切りt0.3 撤去 アルミ製笠木 取外し(再使用する)	外部建具	改修前	アルミサッシ 既存のまま 建具廻りシーリング 撤去
	改修後	高圧洗浄(高圧水洗工法)、アスファルトシングル葺き(カバー工法、下地調整共) ステンレス製ケラバ包みt0.3、ステンレス製軒水切りt0.3、ステンレス製壁取合い水切りt0.3 アルミ製笠木 再取付け		改修後	建具廻りシーリング(MS-2)15×10打替え
PH屋根 エントランスホール庇	改修前	断熱モルタルt40 残し、アスファルトルーフィング(22kg/巻)2層敷き 撤去、ガルバリウム鋼板t0.35AT横葺き 撤去	換気フード (ウェザーカバー)	改修前	ステンレス製深型フードφ100、150用 撤去
	改修後	アスファルトシングル葺き(撤去工法、下地調整共) ケラバ包み(ガルバリウム鋼板t0.5)、軒先金物、軒水切り(ガルバリウム鋼板t0.5)、壁取合い水切り(ガルバリウム鋼板t0.5)		改修後	ステンレス製深型フードφ100、150用(防虫網付き) ※延焼のおそれのある部分のφ150用:防火ダンパー付き
PHバルコニー防水	改修前	平部:コンクリート下地、アスファルト防水(B-2工法)、保護モルタルt60 残し、伸縮目地 撤去 立上り部:アスファルト防水(B-2工法) 撤去、保護モルタルt60 撤去	ルーフトレン	改修前	共用廊下:横引きドレンφ50 既存のまま ベランダ:横引きドレンφ50、中継ドレンφ75 既存のまま PHバルコニー:横引きドレンφ100 撤去
	改修後	平部:伸縮目地撤去跡補修(シール材充填、モルタル補修等)、高圧洗浄(水洗い工法)、塗膜防水POX工法(X-1) 立上り部:塗膜防水POX工法(X-2)、端部金物押え、アルミ水切り		改修後	PHバルコニー:改修用横引きドレンφ100
外壁、軒裏 (共用廊下、階段共) (ベランダ共)	改修前	コンクリート打放し下地、複数塗材RE(塗膜の劣化、剥離部分のみ撤去) 庇、窓台上:防水モルタル塗り	共用廊下 (床、笠木)	改修前	床:防水モルタル塗り 既存のまま 笠木付きアルミ製手すり:W225、H250 既存のまま
	改修後	高圧洗浄(高圧水洗工法)、下地調整(C-1)、複数塗材E 付着した汚れ等の除去、清掃も行うこと 庇、窓台上:高圧洗浄(高圧水洗工法)のみ		改修後	-
と い	改修前	軒樋:角型(ステンレス製吊り金物#600) 既存のまま(一部撤去) 縦樋:VP管φ100(ステンレス製掘み金物#1000) 既存のまま	その他外装	改修前	アルミ製物干し金物、避難ハッチ(ベランダ) 既存のまま アルミ製手すり:H250 既存のまま
	改修後	軒樋:角型(ステンレス製吊り金物#600) 一部新設 縦樋:下地調整、SOP塗替え		改修後	-

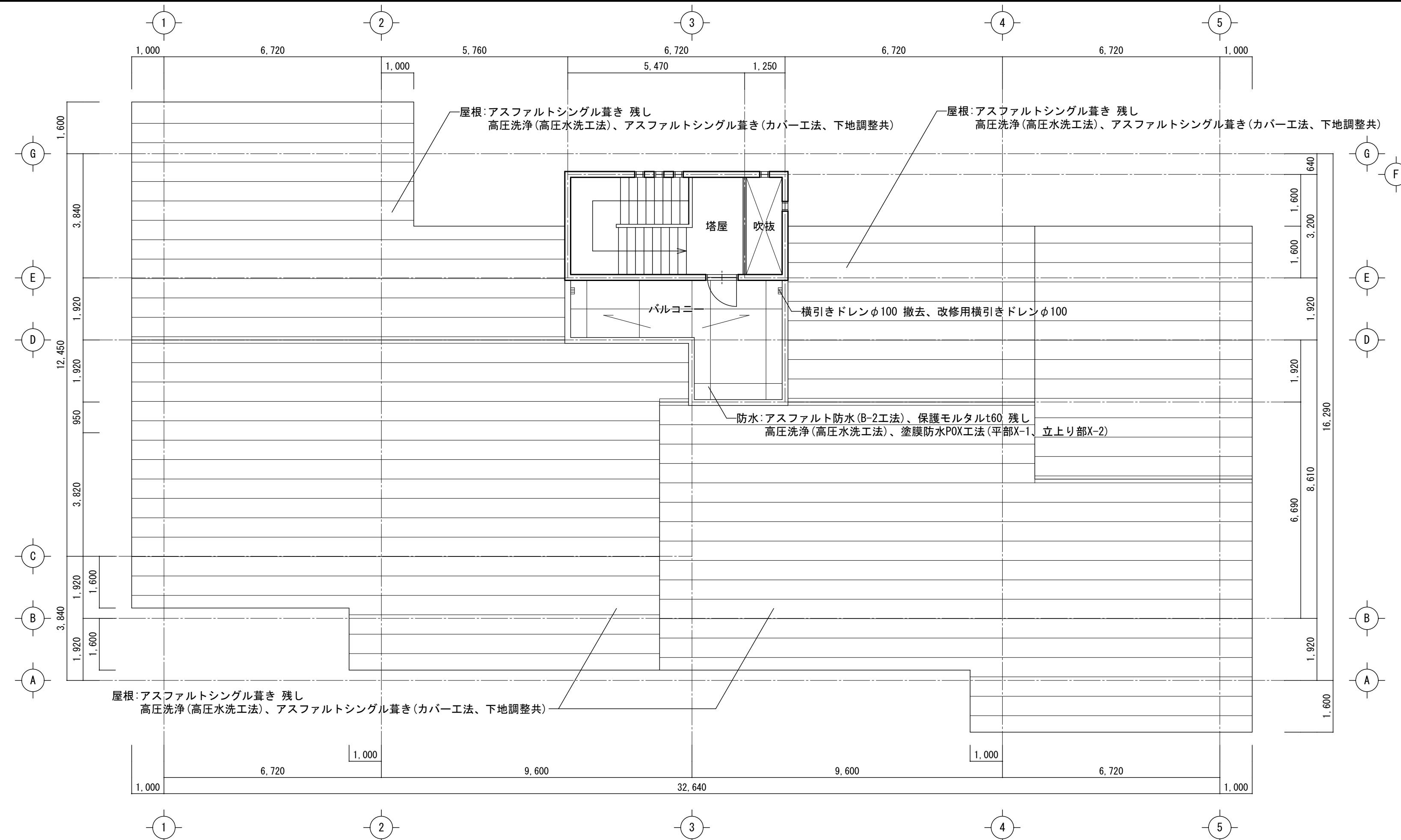
アスベスト含有建材について

既存外壁について、改修工事範囲にアスベスト含有建材は無いものとする。
(下地を含め外装材にアスベストが含まれていないことが調査済み)

凡 例	特 記 事 項	
SOP	合成樹脂調合ペイント塗り	1. 設計図面に記載の外壁補修数量は参考値であり、外壁調査により数量を確定する。
LGS	軽量鉄骨壁 (天井)	2. 外壁調査の結果により防水モルタル(または断熱モルタル)に浮きを確認された場合、協議の上、モルタル塗り撤去、塗替えとする。
		3. 既存エアコンスリーブ(キャップ共)の破損、欠落部は撤去、新設する。
		4. 改修にあたり外壁面の露出配管、空調室外機等は、脱着なしで適切に養生すること。 ただし改修に支障がある場合は、協議の上脱着、または盛替えを行うこと。
		5. アスファルトシングル葺き、および塗膜防水は責任施工とし、保証年限は10年とする。
		6. 脱着部材については、屋根改修、及び外壁改修に伴い障害となる部分を対象とする。 そのまま改修可能な場合、脱着の必要はないものとする。
		7. 壁面の鳥や入居者所有の配管等は、受注者の責において取り扱うこと。

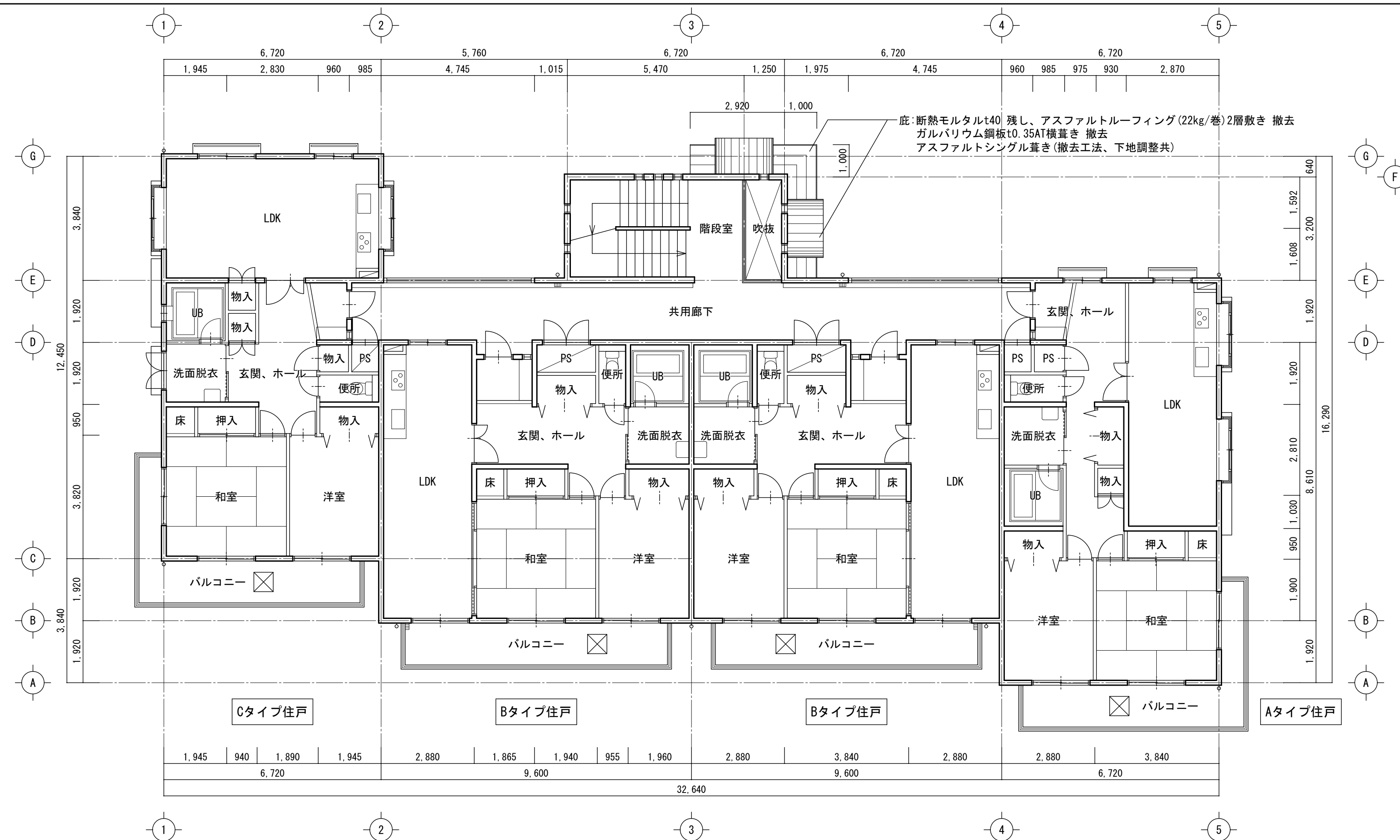


1階平面図(E棟) 1:100

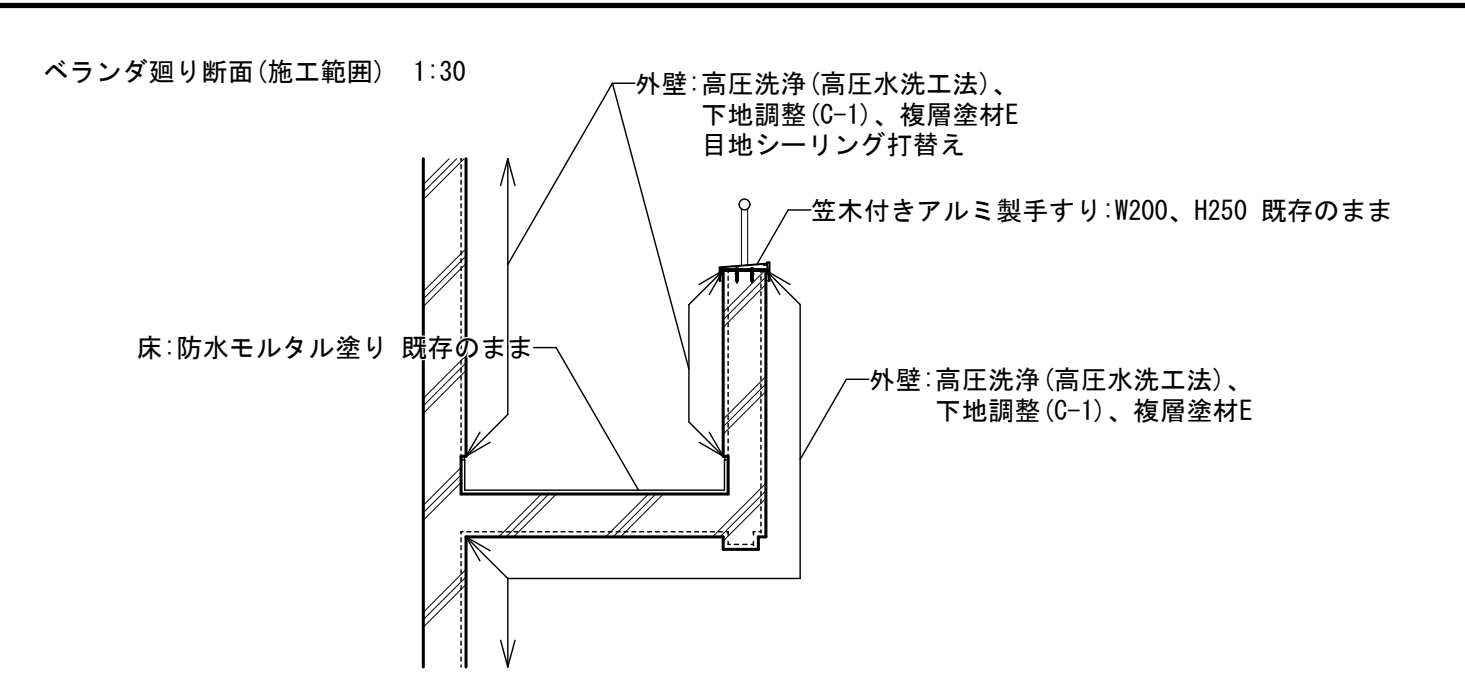


PH屋根伏図 1:100

PH平面図、屋根伏図(E棟) 1:100



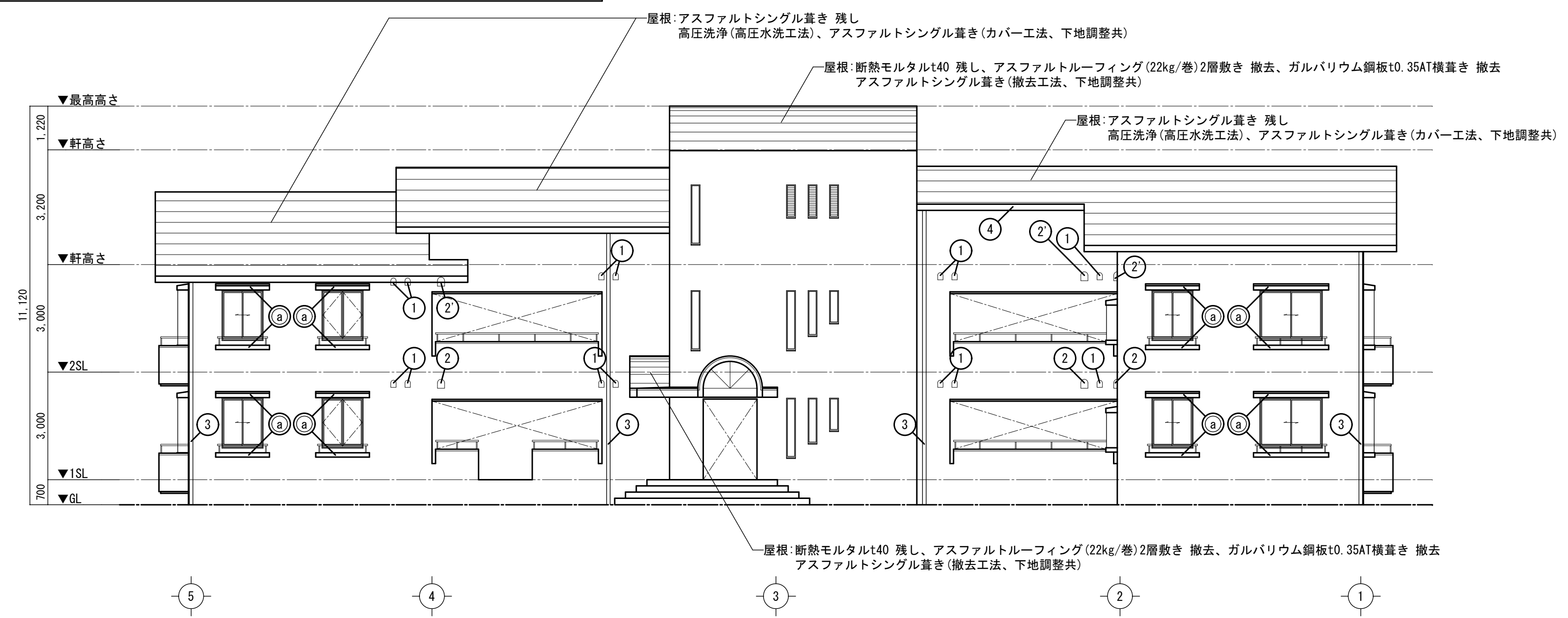
2階平面図(E棟) 1:100



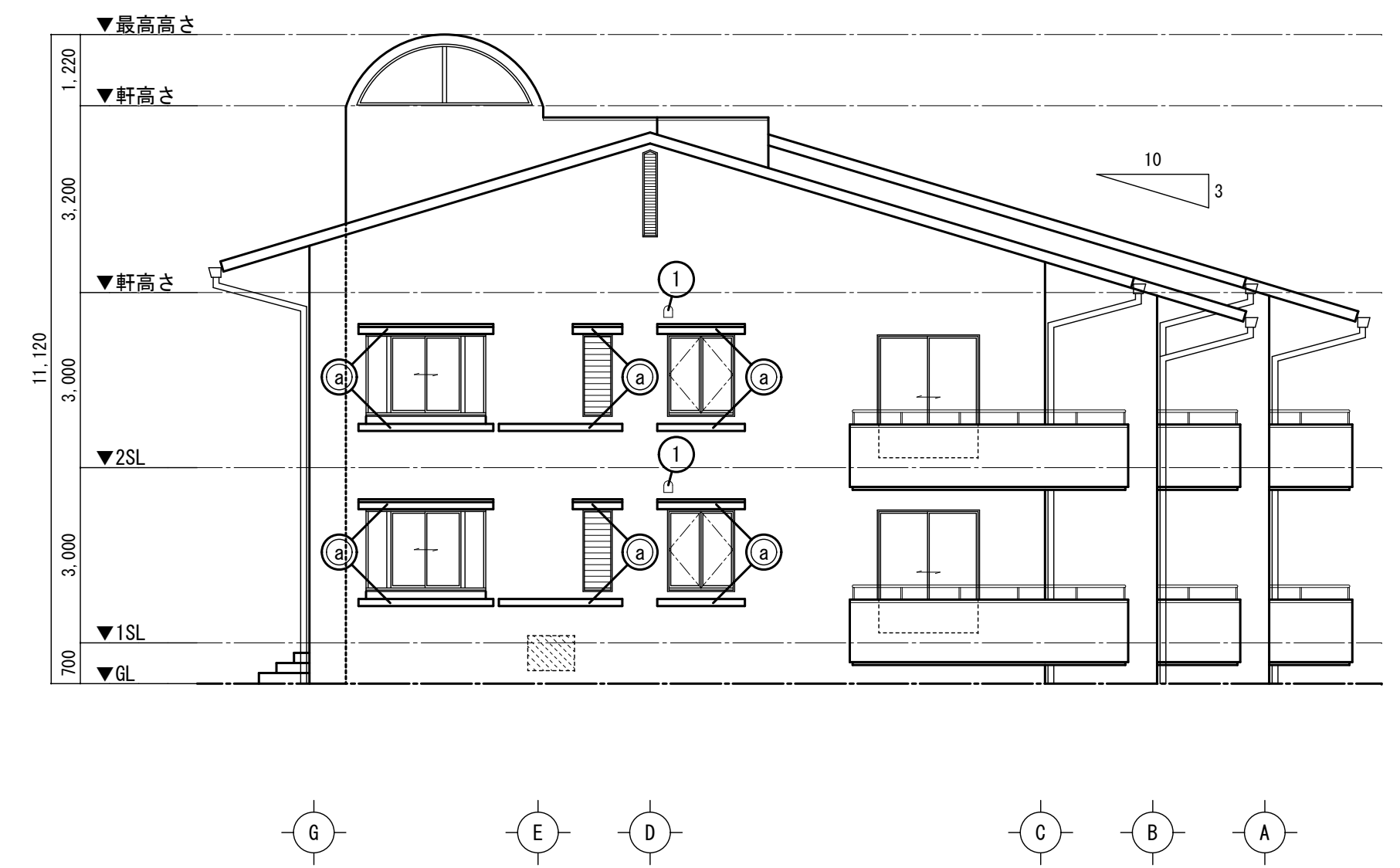
外壁改修仕様	改修割合(参考値)
外壁全体: コンクリート打放し下地、複層塗材RE 残し ※ただし、塗膜の劣化、剥離部分のみ撤去 高圧洗浄(高圧水洗工法)、下地調整(C-1)、複層塗材E 庇、窓台上: 防水モルタル塗り 残し 高圧洗浄(高圧水洗工法)のみ 建具廻りシーリング(MS-2)15×10打替え (換気ガラリ共) 打継目地、化粧目地シーリング打替え	100% (※2%)
補修 ひび割れ補修:(幅0.2~1.0mm)自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 (幅1.0mm以上)Uカットシール充填工法	30% 2%
欠損部補修:エポキシ樹脂モルタル充填工法	2.5%

※外壁改修範囲(軒裏を含む)について、共用廊下、階段室、ベランダ部分も対象とする。

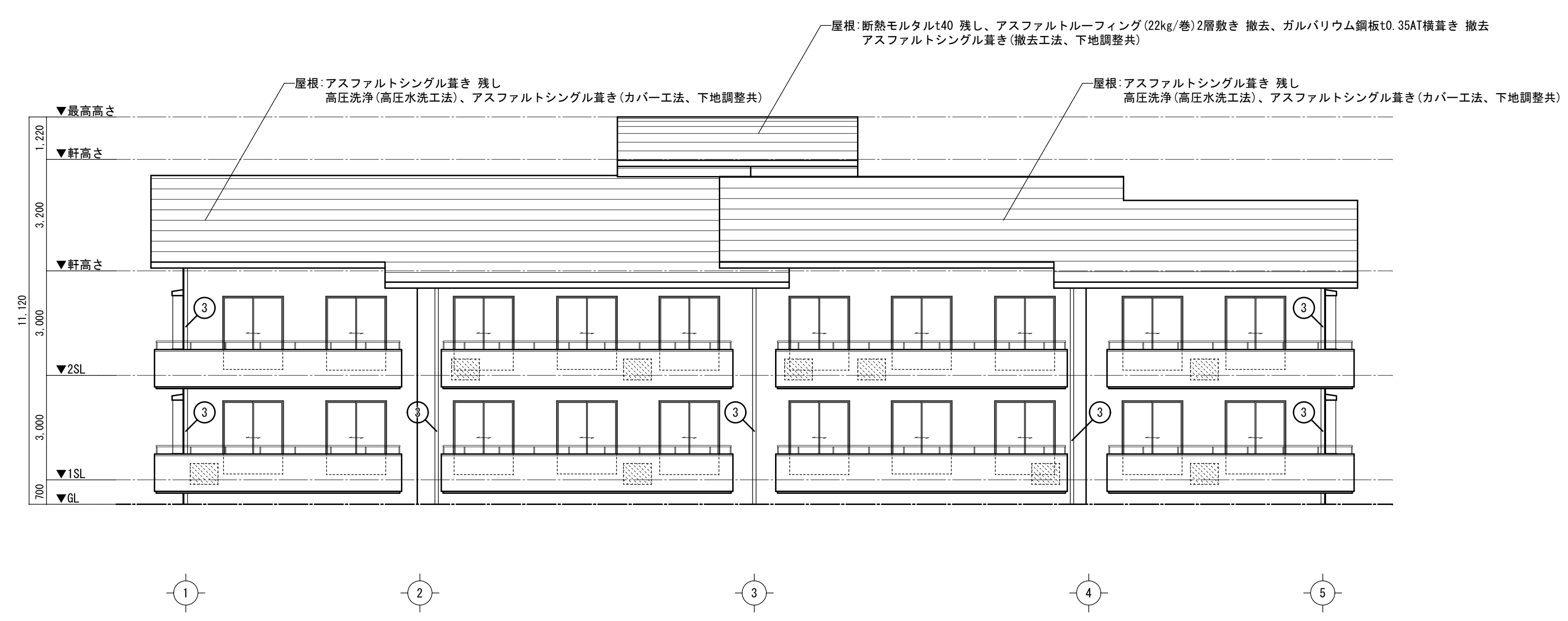
外壁仕上げ範囲凡例	
①	ステンレス製深型フードφ100用 撤去 ステンレス製深型フードφ150用(防虫網付き)
②	ステンレス製深型フードφ150用 撤去 ステンレス製深型フードφ150用(防虫網付き)
③	ステンレス製深型フードφ150用 撤去 ステンレス製深型フードφ150用(防虫網付き)
④	④ 軒樋:VP管φ100 既存のまま、下地調整、SOP塗替え ④ 軒樋:角型(ステンレス製吊り金物φ600) 撤去 軒樋:角型(ステンレス製吊り金物φ600)
⑤	⑤ 既存庇、窓台上:防水モルタル塗り部分を示す (その他既存外壁:コンクリート打放し下地、複層塗材RE) ⑤ 空調室外機 既存のまま (改修に支障がある場合は協議し脱着、または盛替え)
その他外装 特記無き軒樋、アルミ製物干し金物、避難ハッチ(ベランダ) アルミ製手すり:H250、笠木付きアルミ製手すり:W200、H250 既存のまま	



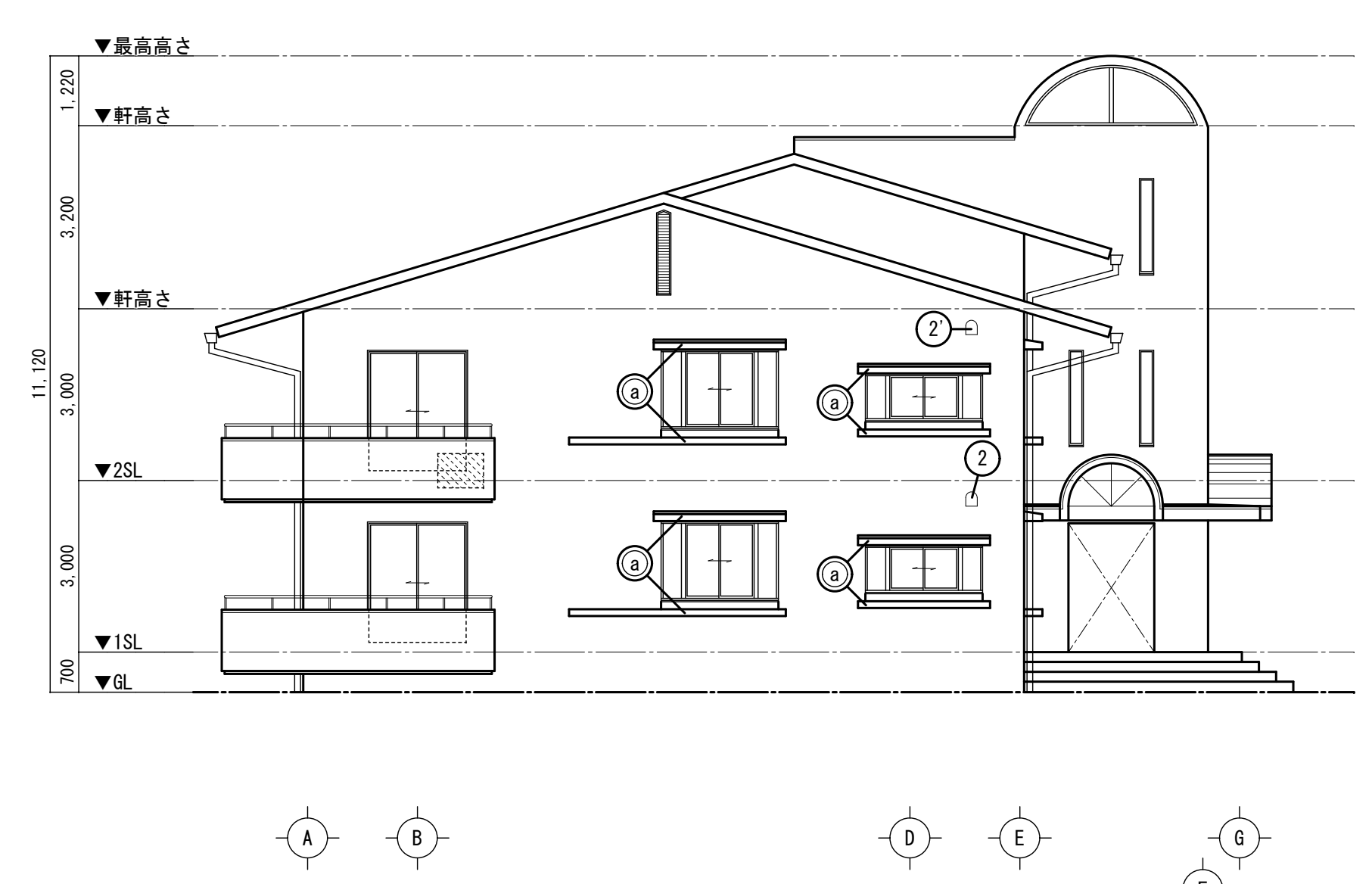
北立面図(E棟) 1:100



西立面図(E棟) 1:100



南立面図(E棟) 1:100



東立面図(E棟) 1:100

